

2022年度

東京都立大学

「観光経営副専攻コース」

「観光マネジメント副専攻コース」

シラバス

東京都立大学

観光経営副専攻コース

観光マネジメント副専攻コース

目 次

観光経営副専攻

観光経営副専攻コースの概要	1
観光経営副専攻コースの履修方法	2
履修科目一覧	3
観光経営副専攻コースの時間割	4
シラバス	5

観光マネジメント副専攻

観光マネジメント副専攻コースの概要	22
観光マネジメント副専攻コースの履修方法	23
履修科目一覧	24
観光マネジメント副専攻コースの時間割	25
シラバス	26
成績の評価項目と基準	48
9号館2階見取り図	49
副専攻コース履修申出書	50

観光経営副専攻コースの概要

副専攻コースとは

副専攻コースは、学生が、自分が所属し専攻する学科・コース（以下「主専攻コース」という）とは異なる特定の専門領域について体系的に学ぶことにより、複数の領域にわたる複合的な専門知識を修得し、視野を拡大することを目的とする履修コースである。

「観光経営副専攻コース」は、主たる担当部局である都市環境学部自然・文化ツーリズムコースに加えて都市教養学部経営学系他の協力を得て運営されている。

観光経営副専攻コースのコンセプト

観光経営副専攻コースは、観光とその経営に関する教育プログラムを提供し、都市・自然・社会と調和した持続発展可能な観光を支え、観光関連企業、観光行政、地域において第一線で企画立案やマネジメントに携わるリーダーとなり得る、国際的視野と先端的なマネジメント能力を兼ね備えた先導的人材の育成を目指す。

対象とする学生

2011年度（平成23年度）以降から2017年度（平成29年度）以前入学のすべての学部学生を対象とする。とりわけ、将来、観光産業や観光行政の幹部、観光関連分野での地域リーダーとして活躍しようとする学生、マネジメント能力に磨きをかけ様々な分野のリーダーとして活躍しようとする学生、また、本学大学院を含む観光分野の大学院に進学を希望する学生などには本副専攻コースの履修を強く推奨する。

観光経営副専攻コースの履修方法

観光経営副専攻コース履修の申出

観光経営副専攻コースの履修を希望する学生は、2年次後期または3年次前後期の所定の履修申請期間に「副専攻コース履修申出書」に必要事項を記入し、都市環境学部教務係（9号館2階、図参照）に提出する。なお申出書は巻末に掲載してあるので、それを複写して用いること。

また、履修に関して相談がある場合には、都市環境学部観光科学科教務メール(kyomu@tmu.ac.jp)に問い合わせること。

観光経営副専攻コースの履修科目と修了認定要件

観光経営副専攻コースの開講科目は、次頁の履修科目一覧にあげるとおり、全学共通科目では教養科目群の3科目、基盤科目群の8科目、専門教育科目では経営学系専門教育科目の7科目、自然・文化リズムコース専門教育科目の5科目、および観光経営副専攻コース専門教育科目8科目である。これらの科目について、科目一覧の分野区分ごとの要件に従い、26単位以上履修することが修了認定要件である。

各自の所属するコース・学科の履修科目と本副専攻コースの履修科目が重複する場合、原則として、それぞれについて修了認定科目と換算することができる（詳細は、各自の所属するコース・学科の卒業要件を参照すること）。ただし、各自の所属するコース・学科の専門教育科目の単位を本副専攻コースの修了認定単位に算入できるのは8単位までである。

主専攻コースを修了し、かつ、上記の修了認定要件を満たした者には、観光経営副専攻コースを修了したことを認定するとともに、卒業時には副専攻コース修了証書が授与される。

観光経営副専攻コースの各科目の履修方法

観光経営副専攻コースの科目を履修する際は、通常の方法により履修申請（登録）を行うこと。

「副専攻コース履修申出書」を提出していない学生であっても、本副専攻コースが開講する個々の科目を受講することは可能であるが、興味のある学生は履修申請（登録）を行うことを推奨する。

観光経営副専攻コースの掲示について

観光経営副専攻コースの掲示については、インフォメーションギャラリーの都市環境学部掲示板等に留意すること。

履修科目一覧（2015年度以降入学生）

分野	1～2年次の履修推奨科目			3～4年次の履修推奨科目				
	区分	科目名	要件	区分	科目名	要件		
経営戦略・ 人材・組織	基盤	経営学入門	1科目 以上	副	サービスマネジメント	3科目 以上		
	経	経営戦略論		副	ホスピタリティ産業の経営戦略論			
	経	経営組織論		経	ヒューマン・リソース・マネジメント			
				経	経営行動論			
会計・財務	基盤	会計学入門	1科目	経	原価計算論	1科目 以上		
				副	ホスピタリティ産業の財務管理論			
IT・ ビジネス スキル	基礎	(情報リテラシー実践Ⅰ)	1科目 以上	経	意思決定論	1科目 以上		
	基盤	法学入門						
	基盤	民法入門					ツ	観光関連法規概説
	基盤	統計学Ⅰ						
マーケティング・ 産業論	教	ツーリズム産業論	1科目 以上	ツ	観光資源論	3科目 以上		
	基盤	入門ミクロ経済学		副	宿泊産業論 (隔年開講予定 2022年度不開講)			
	基盤	入門マクロ経済学		副	旅行産業論 (隔年開講予定 2022年度開講)			
	基盤	サービス・マーケティング (2021年度不開講)		副	MICE (隔年開講予定 2022年度不開講)			
	経	マーケティング・マネジメント		副	インターンシップ			
				副	海外宿泊旅行サービス研究			
専門教養	基礎	(実践英語Ⅰ)	必修	ツ	観光地理学 (隔年開講予定 2022年度開講)	※2		
	教	日本の歴史と社会・文化			※1		観光地誌学 (隔年開講予定 2022年度不開講)	
	教	歴史学入門						

※1および※2の中から1科目以上

※区分略号一覧

全学共通科目：

基礎：基礎科目群（全学必修につき、修了認定要件26単位に含まれない）

教：教養科目群 基盤：基盤科目群

専門教育科目：

経：経営学系専門教育科目

ツ：自然・文化ツーリズムコース専門教育科目

副：観光経営副専攻コース専門教育科目

観光経営副専攻コースの時間割

下に掲載する時間割は 2022 年度開講のものであるが、変更になる場合があるため、時間割及び授業案内（シラバス）、WEBシラバス、掲示なども必ず確認すること。

前期

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
1 限	[基盤]統計学 I	[基盤]統計学 I			[基盤]法学入門 [基盤]統計学 I
2 限	[教]歴史学入門 [基盤]入門ミクロ経済学 [ツ]コミュニケーション学		[副]ホスピタリティ 産業の経営戦略論	[基盤]経営学入門*	
3 限		[経]意思決定論	[経]マーケティング・ マネジメント* [基盤]会計学入門	[基盤]入門マクロ経済学	
4 限	[副]サービスマネジメント			[経]原価計算論	
5 限			[副]旅行産業論		

後期

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
1 限				[経]経営組織論	
2 限		[副]ホスピタリティ 産業の財務管理論	[ツ]観光関連法規概説 [経]ヒューマン・リソース・ マネジメント	[基盤]民法入門 [教]日本の歴史と社会・ 文化	
3 限	[ツ]観光地理学	[経]経営戦略論	[教]ツーリズム産業論 [ツ]観光資源論	[経]経営行動論	
4 限					
5 限					

集中授業第 I 期（前期に開講、履修申請時期は前期・通年科目と同様）

[副]インターンシップ	[副]海外宿泊旅行サービス研究
-------------	-----------------

※区分略号一覧

全学共通科目：

基礎：基礎科目群（全学必修につき、修了認定要件 26 単位に含まれない）

教：教養科目群 基盤：基盤科目群

専門教育科目：

経：経営学系専門教育科目

ツ：自然・文化ツーリズムコース専門教育科目

副：観光経営副専攻コース専門教育科目

■ シラバス

以下には、専門教育科目のシラバスのみ掲載している。なお、これらの科目のシラバスは、全てWEBシラバスでも確認することができる。その他の全学共通科目（基礎科目群、教養科目群、基盤科目群）はWEBシラバス及び授業案内（シラバス）で確認すること。

■ 経営学系専門教育科目

*印がついている科目は、科目名と授業番号が入学年度で異なるが、2013年度以降入学者の科目名を掲載している。詳細は、WEBシラバス及び経営学系授業概要を参照すること。

H061	経営戦略論	担当教員	竹田 陽子	後期・火3	2単位
①授業方針・テーマ	経営戦略は、企業が「われわれはどのような存在であるのか」「どこへ向かいたいのか」「そこに至るまでの道筋」を考え、行動することである。講義では企業が直面する次のような問題を扱う。 <ul style="list-style-type: none"> - どのような付加価値をどのように生み出すのか - 競争相手に付加価値を奪われないようにするにはどうしたらよいのか - 他者と共に付加価値を生み出すためにどのような関係を形成していくのか - 自ら保有する資源をどのように使うのか - 企業内部にどのような資源を蓄積していくのか 				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	経営戦略に関する主要な理論を理解し、学んだ概念を企業や社会で起こっている諸問題に適用して分析できるようになること（論理的思考力）、さらには、将来社会で実践に携わるときに参照できるフレームワークを体得すること（総合的問題思考力・情報活用能力）を目標とする。				
③授業計画・内容 授業方法	<p>【授業計画】（変更することがある）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 経営戦略とは何か 戦略に関する見方の変遷とアプローチ 2. 企業の境界、垂直統合 3. 多角化、事業ドメイン 4. ポジショニング・アプローチ：外部環境分析 5. ポジショニングの型 6. 価格戦略 7. ネットワークの外部性 8. ゲーム・アプローチ：競争と協調 9. 資源アプローチ 10. 企業間の対立と協力 11. プラットフォーム戦略とエコシステム 12. 動的能力アプローチ：ダイナミック・ケイパビリティ 13. 技術革新 14. 創発、創造の場 15. 期末レポート <p>【授業方法】</p> <p>対面授業のほか、オンライン授業で実施する回がある。 オンライン授業日は学期のはじめに伝えるが、新型コロナ感染状況により学期中に変更する可能性がある。 講義のほか、受講生が講義内容に関連した設問に答え、その内容に関する議論をおこなう。また、中間課題は期末レポートの素案を提出して内容を改善するのが目的であり、その内容に関する議論や質疑応答、フィードバックをおこなう。</p>				
④授業外学習	小課題（授業時に出される設問に関して、オンラインで次回授業に先立って提出する）、中間課題、期末レポートのために、毎回の授業内容の復習を行った上に、自ら問題意識を持って情報を探索し、文献を読み込み、論理的に思考する能動的な学習が求められる。				
⑤テキスト・参考書等	コース全体の推薦テキストは、 Besanko, D. et al. (2000) 『戦略の経済学』ダイヤモンド社 Barney, J.B. (2002) 『企業戦略論 上中下』ダイヤモンド社 テーマごとの参考文献は授業中に紹介する。				
⑥成績評価方法	期末レポート 60%、小課題と中間課題の質 40%（論理的思考力・総合的問題思考力・情報活用能力）。特に優秀な回答には加点する。				
⑦質問受付方法（オフィスアワー等）	オフィスアワーは特に設定しないが、質問等がある場合は kibaco のメッセージ機能で受け付け、必要があれば面談する。				
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	ミクロ経済学と経営組織論を履修することが望ましい。				

H074	経営組織論	担当教員	高尾 義明	後期・木1	2単位
①授業方針・テーマ	企業組織を主要な対象として、組織についてのマクロ理論(マクロ組織論)及びミクロ理論(ミクロ組織論)を併せて学習することを通じて、経営と組織の関係についての考察を深めていく。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	「組織の時代」である現代において、本講義で修得できる知識は、企業をはじめとした組織体のマネジメントに携わるための教養的知識といえる。具体的には、マクロ理論(マクロ組織論)を学習し、組織の構造や個人に還元できない組織の創発的側面についての理解を深めることによって、組織の有効性に影響を与える要因を分析するための知識が得られる。また、ミクロ理論(ミクロ組織論)の学習を通じて、組織のメンバーとしてどのように組織とかかわり、ふるまうべきかを内省する手がかりとなる知識を獲得できる。また、授業中に実施するグループワークを通じて、他者とのコミュニケーション能力を高めることもできる。				
③授業計画・内容	<p>01回 なぜ経営組織論について学ぶのか／ガイダンス</p> <p>02回 経営組織の定義と成立条件</p> <p>03回 組織の目的と貢献意欲</p> <p>04回 組織構造①：コミュニケーションと調整の基本メカニズム</p> <p>05回 組織構造②：組織形態と公式構造の問題</p> <p>06回 組織構造③：非公式構造としての社会的ネットワーク／組織文化</p> <p>07回 組織プロセス①：影響力としてのリーダーシップ</p> <p>08回 組織プロセス②：変化する貢献意欲</p> <p>09回 組織のダイナミズム①：事業環境と組織間関係</p> <p>10回 組織のダイナミズム②：戦略と組織学習</p> <p>11回 組織のダイナミズム③：イノベーションの創出</p> <p>12回 組織のダイナミズム④：組織の変化と成立条件</p> <p>13回 ケースを用いた総合ディスカッション①</p> <p>14回 ケースを用いた総合ディスカッション②／まとめ</p> <p>15回 試験及び解説</p> <p>【授業方法】：講義が中心であるが、適宜質問を投げかけ、受講生に回答を求める。また、半数以上の授業において講義中にグループワークを実施する。</p>				
④授業外学習	毎回の授業(及びkibaco)で提示する次の授業内容に関連した問いに対する回答を準備して授業に臨むこと。また、授業の復習を行う際に受講生に解説を求めるので、授業の復習を行うこと。				
⑤テキスト・参考書等	<p>テキスト：高尾義明『はじめての経営組織論』(有斐閣、2019年)</p> <p>参考書：他にも授業中に指示し、配布可能なものについてkibacoを通じて配布する。</p>				
⑥成績評価方法	期末試験の点数を基礎(約80%)にししながら、グループワークなどを通じた講義への積極的貢献(約20%)を加味して成績評価を行う。				
⑦質問受付方法(オフィスアワー等)	原則として、授業期間中の毎週水曜日14:00-15:00をオフィスアワーに設定します。質問がある場合は、前々日までに必ずメール(ytakao@tmu.ac.jp)で予約をした上で研究室(3号館224号室)まで来てください。				
⑧特記事項(他の授業科目との関連性)	【他の科目との関連性】経営学入門を履修済みであることを前提として授業を行う。				

H417	マーケティング・マネジメント	担当教員	水越 康介	前期・水3	2単位
①授業方針・テーマ	<p>本授業では、マーケティングの基礎的な領域としてマーケティング・マネジメントを学びます。個々のマーケティング活動そのものは、われわれにとってもなじみの深いものがほとんどです。顧客ニーズを元にした製品開発、メディアを通じた広告活動、百貨店やコンビニといった販路の確保、特売やポイント制を通じた価格戦略。授業では、こうした日常的な事例をふまえて、できるだけディスカッションを通じながら、その背後にあるマーケティングの論理を明らかにしていきます。</p>				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	<p>本授業では、マーケティングの基礎を学ぶことができます。</p>				
③授業計画・内容 授業方法	<p>1回 オリエンテーション、マーケティングの基本 2回 顧客の理解 3回 マーケティング戦略の立案 4回 製品政策 5回 価格政策 6回 プロモーション政策 7回 流通政策 8回 マーケティング・ミックスの統合 9-11回 市場資源のマーケティング 12-15回 マーケティングの拡張 ※授業計画はオリエンテーションの状況などをみて変更の可能性があります。</p>				
④授業外学習	<p>予習、復習、レポート作成</p>				
⑤テキスト・参考書等	<p>黒岩健一郎・水越康介『マーケティングをつかむ』新版』有斐閣、2018。 ※本授業では、電子書籍(VarsityWeb eBooks:生協)を利用します。※本授業では、電子書籍(VarsityWeb eBooks:生協)を利用します。大学生協にてクーポンコードを購入ください。 水越康介・黒岩健一郎『考えて議論しながらつかむ、ある日の午後のマーケティング授業の風景』有斐閣、2015、Kindle版。</p>				
⑥成績評価方法	<p>提出レポート、および授業発表</p>				
⑦質問受付方法（オフィスアワー等）	<p>オフィスアワーは、水曜日、12:00-13:00です。事前に授業中に提示するメールアドレスまでご一報ください。</p>				
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	<p>本授業ではkibacoを利用します。</p>				

H004	ヒューマン・リソース・マネジメント	担当教員	西村 孝史	後期・水2	2単位
<p>① 授業方針・テーマ</p> <p>②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標</p> <p>③授業計画・内容 授業方法</p> <p>④授業外学習</p> <p>⑤テキスト・参考書等</p> <p>⑥成績評価方法</p> <p>⑦質問受付方法（オフィスアワー等）</p> <p>⑧特記事項（他の授業科目との関連性）</p>	<p>企業はモノやヒトなどの経営資源を活用し、経済活動を行っています。ヒューマン・リソース・マネジメントは、経営資源の中でも「ヒト」に注目する学問分野で、人的資源管理とか人事管理とも呼ばれます。組織に所属する人材の能力発揮の程度や人材の力を束ねる組織力の在り方が企業の競争優位性を左右する点で経営資源の中でも「ヒト」の重要性は今ますます高まっています。しかしながら、モノとは違い「ヒト」は心を持つゆえに、そのときどきによって彼（女）のパフォーマンスは変化します。「ヒト」という特殊な資源を活用する上で、企業はどのような仕組みを用いているのか、その原理は何かを学びます。</p> <p>人を動かす仕掛けとして企業がどのような人事施策を用いているのか、なぜそれらの人事施策が機能する（しない）のかを考えることで、表層的な知識だけでなく、背後のメカニズムに関する知識を得ます。また、会社が実施する教育訓練制度や従業員との意見交換制度について学ぶことで、皆さんが社会に出る前に、キャリア形成や労働条件決定に関する基本的な考え方を習得することを目的とします。</p> <p>【事前注意事項】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 皆さんの学習状況に応じて変更する可能性があります。 2. 授業は対面講義を前提としていますが、状況によりオンライン講義に切り替える可能性があります。 3. 対面講義での教育効果を高めるため、一部の講義をオンデマンド（録画学習）として設定し、対面授業ではグループ討議を行う可能性があります。 4. 教室では授業資料の紙媒体での配布は行わないので注意すること。 <p>【授業計画】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション（講義の目的・履修上の留意点）・人的資源管理とは何か 2. 日本的経営の成り立ち 3. 社員区分制度と格付け制度 4. 採用・定着 5. 評価 6. 配置・異動 7. 人材育成とキャリア 8. 報酬管理 9. 退職管理・雇用調整 10. 労働時間管理 11. ゲストスピーカー（ゲストの予定により前後に変更する可能性あり） 12. 健康経営・安全衛生 13. 労使関係 14. 国際人事 15. まとめ <p>④授業外学習</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. kibaco にアップされる授業のレジュメ、新聞や雑誌記事などに事前に目を通しておくこと 2. 授業の中で皆さんの意見を聞くことがあります。テーマについて自分なりの考えを持った上で授業に参加してください。 3. 配布した資料がその週で完結するとは限りません。 4. アルバイト経験、組織（部活・サークル）での経験、あるいは身近な大人との行動で経験したことと授業で習った内容を自分なりに結びつけることを意識すること。 <p>⑤テキスト・参考書等</p> <p>西村 孝史・島貫 智行・西岡 由美編著（2022）『1からの人的資源管理』碩学舎。 そのほか kibaco で配布される資料の予習・復習を行うこと。</p> <p>⑥成績評価方法</p> <p>授業態度 20%（毎回ではなく、ランダムに配布するコメントシート） 期末試験 80%（状況により、オンライン試験やレポートになる可能性あり）</p> <p>※いかなる理由であっても、コメントシート配布時に講義に出席していなかった学生に後からコメントシートを再配布することはないので注意すること。評価割合を変更する場合には事前に通知します。</p> <p>⑦質問受付方法（オフィスアワー等）</p> <p>水曜日 12:15-13:00（事前にメールにて教員にアポイントをとること。教員のメールアドレスは、資料の表紙に記載されている。）。</p> <p>⑧特記事項（他の授業科目との関連性）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業資料の配布は原則として kibaco を通じて行うので、各自ダウンロードして出力のうえ授業に臨むこと。教室での紙での配布は行わない。 2. この科目は、経営学の応用分野のため、経営学に関する基礎的な知識を有していることが望ましい。 				

H220	経営行動論	担当教員	桑田 耕太郎	後期・木3	2単位
①授業方針・テーマ	<p>経営行動論は、現代の産業社会の基礎的構成要素である企業を対象とし、企業およびそのベースとなっている産業社会の構造や行動のメカニズムを解明する学問です。</p> <p>本講義では、経営戦略やマーケティング戦略、経営組織論や組織行動論など経営学の基礎知識を習得した学生を対象に、具体的なケーススタディなどを取り上げつつ、経営者の行動、役割、責任について学んでいきます。</p>				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	<p>【到達目標】経営戦略やマーケティング戦略、経営組織論や組織行動論などの各論を基礎に、総合的な意思決定を行う経営者の行動という観点から、経営者の行動について理解を深めていきます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現実の企業の経営政策に関して、総合的な分析ができるようになります。 ・中上級レベルの経営学の理論的文献を読み、現実の企業の事例を分析することにより、抽象的な理論を現実に応用し、現実の現象を抽象的に理解できるようにします。 				
③授業計画・内容 授業方法	<p>第1回 経営行動論の目的 第2回 企業組織の生存条件と組織均衡 第3回 経営資源と企業組織の成長・発展 第4回 経営戦略のデザイン1 第5回 経営戦略のデザイン2 第6回 競争戦略とマーケティング戦略 第7回 トップマネジメント組織のデザインと構造 第8回 組織構造のデザイン 第9回 イノベーションのマネジメントと組織 第10回 組織文化の概念 第11回 組織文化の機能と変革 第12回 組織学習の理論と組織のインテリジェンス 第13回 企業変革のマネジメント 第14回 企業変革プロセスのマネジメント 第15回 期末試験・問題解説</p> <p>【授業方法】講義とケーススタディを中心にした授業を行います。ケーススタディでは、経営学の概念や理論を使って企業の事例を分析する課題を行うため、教員と学生のディスカッション、グループ討議などを適宜織り交ぜて授業を進めます。</p>				
④授業外学習	<p>kibaco 上に基本文献やケース課題などをアップするので、事前に課題に対する回答を用意して授業に参加することが必要となります。</p>				
⑤テキスト・参考書等	<p>テキスト：桑田 耕太郎・田尾 雅夫著『組織論 補訂版』（有斐閣 2010年）定価 2268 円 参考書：講義中に指示する。</p>				
⑥成績評価方法	<p>授業中の課題に対する理解度と、期末試験の成績を加味して評価する。 （期末試験 50%/講義中課題等 50%）</p>				
⑦質問受付方法（オフィスアワー等）	<p>質問等は、kibaco 上で受けつけます。 オフィスアワーについては、メールによる事前予約制とします。</p>				
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	<p>本講義は経営戦略やマーケティング戦略、経営組織論や組織行動論など経営学の基礎知識を習得していることを前提として進めるため、内容をより深く理解するためには、経営学・経営戦略論・経営組織論などを履修し、経営学の基礎知識を有していることが望ましい。</p>				

H086	原価計算論	担当教員	妹尾 剛好*	前期・木4	2単位
①授業方針・テーマ	<p>原価計算は、企業が株主や銀行などの外部の関係者に向けて財務諸表を作成するために役立つものです。しかし、原価計算の役割はそれだけではありません。原価計算は社長から現場の従業員まで、企業内部の関係者のためにも役立ちます。具体的には、製品の価格決定などの「意思決定」や原価低減に向けた人や組織の「コントロール」のために用いることができます。この授業では、企業の生産システムとの関連を意識したうえで、製造業の原価計算の基礎を学習します。</p>				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	<p>この授業は、企業の意思決定とコントロールに役立つ原価計算の基礎知識の習得を目的とします。そして、みなさんが原価計算の基礎知識をマスターし、実際のビジネスで活用できるようになることを到達目標とします。</p>				
③授業計画・内容 授業方法	<p>《授業計画・内容》</p> <p>第1回 シラバス確認、ガイダンス 第2回 費目別計算（1）：材料費の計算 第3回 費目別計算（2）：労務費の計算 第4回 費目別計算（3）：経費の計算 第5回 個別原価計算（1）：個別原価計算の概要 第6回 個別原価計算（2）：製造間接費の計算 第7回 部門別原価計算（1）：部門別原価計算の概要 第8回 部門別原価計算（2）：製造部門費の配賦 第9回 部門別原価計算（3）：補助部門費の配賦 第10回 総合原価計算（1）：総合原価計算の概要 第11回 総合原価計算（2）：度外視法による正常仕損・減損の処理 第12回 総合原価計算（3）：非度外視法による正常仕損・減損の処理 第13回 総合原価計算（4）：異常仕損・減損の処理 第14回 第1回から第13回までのまとめ《授業方法》 第15回 期末試験・問題解説</p> <p>講義を中心とした授業を実施しますが、授業中に適宜質問を投げかけるとともに、毎回授業のはじめに小テストを行います。</p>				
④授業外学習	<p>今回の授業範囲を予習し、専門用語の意味等を理解しておいてください。</p>				
⑤テキスト・参考書等	<p>テキストは特に使用しません。授業でプリントを配布して講義を行います。</p> <p>参考書：吉田栄介・花王株式会社会計財務部門編著『花王の経理パーソンになる』（中央経済社 2020年） 林總著『「原価計算」しているのに、なぜ「儲け」が出ないのか？ コストを見える化する「ABC」入門』（日本実業出版社 2018年）</p>				
⑥成績評価方法	<p>平常点（授業態度・提出物の有無等）40%、期末試験60%</p>				
⑦質問受付方法（オフィスアワー等）	<p>質問はメールで受け付けます。メールアドレスについては初回授業時にお伝えします。</p>				
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	<p>特別な予備知識を必要としませんが、他の会計科目とあわせて受講することで、理解がより深まります。今後また変更がある場合は kibaco を通じてお知らせします。</p> <p>オンライン授業になった場合の授業方法の詳細も kibaco に掲示しますのでそちらをご覧ください</p>				

H146	意思決定論	担当教員	長瀬 勝彦	前期・火3	2単位
<p>①授業方針・テーマ</p> <p>②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標</p> <p>③授業計画・内容</p>	<p>人間の意思決定について、行動意思決定論に立脚して講ずる。意思決定とは自分の将来の行動について複数の選択肢からひとつを選び取る行為である。個人的な意思決定には、食堂で料理の注文を決めるような日常の意思決定もあれば、進学や就職、転職、結婚など人生の一大事の意思決定もある。企業などの組織の中では、経営者をはじめとするすべての構成員が職務上のさまざまな意思決定を下している。この講義では、人間の意思決定が何に影響を受けてどのようなプロセスでおこなわれているか、何にどのように影響を受けるのかを議論する。</p> <p>人間の意思決定のありかたは一般人の素朴なイメージとはだいぶ異なっている。生身の人間の意思決定は機械的で単純な損得計算ではなく、進化や学習を通じて獲得したさまざまな癖（バイアスやヒューリスティック）がある。この講義では数多くのバイアスとヒューリスティックを議論する。それらの意味内容を学びながら人間の意思決定の特徴について深く理解することがこの講義の目標である。</p>				
<p>④授業外学習</p> <p>⑤テキスト・参考書等</p> <p>⑥成績評価方法</p>	<p>【授業計画・内容】 主な項目は以下の通りである。なお、項目番号と授業回数は必ずしも一致しない。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. 「成功要因」の神話と現実 3. 規範的アプローチの特徴と限界 4. 人間の意思決定の本質 5. データの収集と分析のバイアス 6. 確率認知 7. 未来予測と投資の意思決定 8. 市場への参入の意思決定 9. M&Aの意思決定 10. 市場からの撤退の意思決定 11. 事業売却の意思決定 12. 利己心と意思決定 13. 公正と感情 14. 経験とアナロジーの意思決定 15. まとめと期末試験 <p>【授業方法】 対面授業を予定しているが、大学の授業方針によりオンラインでおこなう可能性がある。</p> <p>原則として各セッションに復習課題がある。教科書や配付資料、授業でとったノート等を参照しながらそれを解くことが要請される。 毎回の授業について、教科書『意思決定のマネジメント』の電子版（大学生協版）を使用する予復習を推奨する。</p> <p>教科書として『意思決定のマネジメント』（長瀬勝彦[著]，東洋経済新報社，2008年）の大学生協電子書籍を使用する。 参考書は『行動意思決定論』（バイザーマン&ムーア[著]，長瀬勝彦[訳]，白桃書房，2011年），『あなたがお金で損をする本当の理由』（長瀬勝彦[著]，日本経済新聞社，2010年），その他随時指示する。 随時 kibaco 経由で資料を配布する。</p> <p>期末試験（出題範囲は授業の内容すべてと教科書の全範囲）を主とする。電子教科書にマーカーを引くなどの学習や、授業期間中に課題提出等を求めた場合はそれも加味する。 期末試験の実施が不可能な場合などは変更する可能性がある。変更は kibaco で通知する。</p>				
<p>⑦質問受付方法（オフィスアワー等）</p> <p>⑧特記事項（他の授業科目との関連性）</p>	<p>オフィスアワーはメール等による事前予約制として随時おこなう。メールでの質問も受け付ける。 連絡先：nagase@tmu.ac.jp</p> <p>【他の授業科目との関連性】 本科目は心理学を基盤とした行動意思決定論に立脚しているが、意思決定へのアプローチには他に数理的なアプローチがある。ゲーム理論などの経済学や経営科学の諸科目は基本的に規範的アプローチで意思決定を議論している。</p>				

■自然・文化ツーリズムコース専門教育科目

K377	観光関連法規概説	担当教員	阿曾 真紀子 *, 清水 哲夫	後期・水2	2単位
①授業方針・テーマ	観光関連法規が、現在の日本の観光政策、観光産業、そして旅行者の観光行動等にどのような影響を及ぼし、またどのような課題を抱えているのかを体系的に学び、改めて観光の意義を考える機会とする。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	日本の観光のダイナミックな動きと諸課題とそれに関連したケーススタディを学ぶとともに、行政の現場の状況などを含めて体系的に観光関連法規について習得する。特に、ケーススタディでは最新の事例を提供するため、実務の観点から学習することが可能である。				
③授業計画・内容 授業方法	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーションおよび観光関連法規の概要 2 観光関連法規概説で用いる視点（観光主体、観光客体、観光媒体、観光行政） 3 観光立国推進基本法、観光立国推進基本計画（主に観光主体に対する働きかけ） 4 グループディスカッションⅠ （観光立国の推進が観光客体や観光媒体などに与える効果や影響について議論する） 5 関連法Ⅰ（主に観光客体に対する働きかけ） <ul style="list-style-type: none"> ・エコツーリズム推進法（自然観光資源） ・文化財保護法（文化観光資源） ・景観法、歴史まちづくり法（複合型観光資源） 6 グループディスカッションⅡ （観光資源の保護・活用が観光主体や観光媒体などに与える効果や影響について議論する） 7 旅行業法（主に観光媒体に対する働きかけ①—旅行業） 8 関連法Ⅱ（主に観光媒体に対する働きかけ②—宿泊業） <ul style="list-style-type: none"> ・旅館業法と「住宅宿泊事業法」 9 ケーススタディⅠ（旅行会社や航空会社などの観光産業と旅行者行動への影響） 10 ケーススタディⅡ（宿泊産業などの観光産業と旅行者行動への影響） 11 グループディスカッションⅢ （民泊の推進が観光主体や観光客体などに与える効果や影響について議論する） 12 関連法Ⅲ（主に地域住民、地方自治体、地域の事業者に対する働きかけ） <ul style="list-style-type: none"> ・観光圏整備法 ・観光地域づくり法人（DMO） 13 グループディスカッションⅣ （観光地域づくりを行う地方自治体等の取組みを調べ、観光客体との関連や、観光主体及び観光媒体などに与える効果や影響などを議論する） 14 ケーススタディⅢ（海外と国内の観光関連法の最新動向と今後の課題） 15 まとめと試験 				
④授業外学習	観光政策の動向について新聞などを通じて情報を得ておくことをすすめる。				
⑤テキスト・参考書等	<p>講義に必要な資料は適宜配布する。</p> <p>参考書：「旅行業法及びこれに基づく命令」JTB 総合研究所。 「事例で読みとく海外旅行クレーム予防読本」安田亘宏/菅生洋著,学芸出版,2016年..</p>				
⑥成績評価方法	授業の積極的な参加、ミニレポートと試験により評価（具体的な評価方法はオリエンテーション時に通知する）				
⑦質問受付方法（オフィスアワー等）	授業終了後に質問等を受け付ける。				
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	<p>【他の授業科目との関連性】</p> <p>特別な予備知識を必要とせず、観光関連法規を学びながら現実社会との関わりを考える授業であるので、専門を問わず興味があれば受講できる。</p>				

K275	観光資源論	担当教員	Wu Lingling	後期・水3	2単位
①授業方針・テーマ	In this lecture, the basic concepts and theories in tourism marketing will be introduced. It also provides an opportunity to understand data-based scientific marketing through the introduction of data analysis examples in different case studies.				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ Understand the basic concepts and theories in tourism marketing ・ Become familiar with the strategic marketing planning process ・ Recognize the key trends in tourism market ・ Be familiar with different techniques that can be used in tourism marketing research 				
③授業計画・内容 授業方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction Introduction of the basic concepts in marketing generally and tourism marketing more specifically. 2. The tourism marketing environment The dynamic external and internal environment within which the tourism industry operates will be explained. 3. Trends in tourism consumption The key trends of tourism demand will be reviewed; and the factors that drive the diversity of behavior observed in the tourism market will be discussed. 4. Market segmentation The main stages of the segmentation process and the various categories of segmentation criteria will be explained. 5. Marketing Mix - Tourism product 6. Marketing Mix - Pricing 7. Marketing Mix - Distribution channels 8. Marketing Mix - Advertising and promotion 9. Tourism marketing planning Tourism marketing principles and marketing planning process will be lectured. 10. Technology and marketing (1) The applications of recent technology development (e.g., ICT, big data analytics, social media) in tourism marketing will be introduced. 11. Technology and marketing (2) The applications of recent technology development (e.g., ICT, big data analytics, social media) in tourism marketing will be introduced. 12. Tourism marketing research (1) The framework and steps that characterize a research project will be introduced. 13. Tourism marketing research (2) Useful methodologies and techniques in tourism marketing research will be lectured. 14. The future of tourism marketing The contemporary drivers for change in the wider environment shaping the future of tourism marketing will be discussed. 15. Final examination 				
④授業外学習	As a general rule, the handout will be delivered through kibaco before each lecture. Students should read it before each lecture.				
⑤テキスト・参考書等	Students are not required to purchase any textbook. The following is the recommend reading list: Kotler, P. et al, (2017), Marketing for Hospitality and Tourism, Pearson. Hudson, S. (2017), Marketing for Tourism, Hospitality & Events: A Global & Digital Approach, SAGE Publications. Morrison, A. (2013), Marketing and Managing Tourism Destinations, Routledge.				
⑥成績評価方法	20% based on report and 80% based on the final exam.				
⑦質問受付方法 (オフィスアワー等)	Students are requested to contact Dr. Wu by email (wuling@tmu.ac.jp).				
⑧特記事項 (他の授業科目との関連性)	The whole module will be offered in English.				

K282	観光地理学	担当教員	仁平 尊明	後期・月3	2単位
①授業方針・テーマ	<p>地理学の視点から自然ツーリズムを考察するための概念を講義します。 2022年度は北米大陸を事例として、地形、気候、歴史、文化、人口、農業、その他の産業について講義をします。 各講義の最初には、自然と人に関するキーワードの解説をします。</p>				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	<p>(1) 自然と人の関係を地理学の視点から理解する。 (2) 自然ツーリズムの基礎となる自然景観の見方を理解する。 (3) 北米の地誌を理解する。 (4) 地図やグラフによる表現、写真の使い方等、地理学の方法を理解する。</p>				
③授業計画・内容 授業方法	<p>第1回 北米大陸 第2回 地形、地質 第3回 地形と観光地 第4回 温暖湿潤気候、亜寒帯気候 第5回 砂漠気候、地中海性気候、西岸海洋性気候 第6回 気候と災害 第7回 先住民、ヨーロッパ人の移民 第8回 (書を閉じて、野原へ出よう) * 第9回 西部開拓、大陸横断鉄道 第10回 都市構造 第11回 民族、人口 第12回 農村の景観 第13回 道路網、鉄道網、航空網 第14回 サンベルト、フロストベルト 第15回 西海岸から中西部を巡る *ミニ巡検の予定。受講生の人数等により、座学になる場合があります。</p>				
④授業外学習	<p>授業外学習として、以下の参考書を予習・復習のために推薦します(該当する箇所を読む)。 ・University of Minnesota Libraries Publishing Edition 2016. World regional geography: people, places and globalization. ・菊地俊夫編著(2017):「ツーリズムの地理学」二宮書店。</p>				
⑤テキスト・参考書等	<p>テキストは指定しません。講義の資料はインターネットで配布します。</p>				
⑥成績評価方法	<p>最終課題(レポート)で評価します。また授業への参加態度(出席)、授業へのコメント、小課題も参考にします。</p>				
⑦質問受付方法(オフィスアワー等)	<p>Eメールで教員に連絡を取って下さい。授業後にも伺います。</p>				
⑧特記事項(他の授業科目との関連性)	<p>奇数年度開講のため、2021年度は開講する。</p>				

K283	観光地誌学	担当教員	未定	後期・月3	2単位
①授業方針・テーマ	<p>偶数年度開講のため、2022年度は不開講。</p>				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標					
③授業計画・内容 授業方法					
④授業外学習					
⑤テキスト・参考書等					
⑥成績評価方法					
⑦質問受付方法(オフィスアワー等)					
⑧特記事項(他の授業科目との関連性)					

■観光経営副専攻コース専門教育科目

N001	サービス・マネジメント	担当教員	日原 勝也、Wu Lingling、 小笠原 悠	前期・月4	2単位
①授業方針・テーマ	観光分野における諸ビジネス・業務は、サービス提供を中心としてなされており、サービスとしての特性に応じて構築されてきた経営科学、マーケティング科学、経済学等各分野のフレームにより、観光分野の諸現象につき、情報収集・整理、分析、計画、評価、改善等するために必要な理論的知見、手法について習得する。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	以下の点について、関連する理論と分析手法を習得する。 □ 観光分野のサービスを、経営科学のフレームから分析等するために必要な、最適化、確率過程他の基礎的理論と分析手法の概要を習得する。 □ マーケティング科学のフレームから、観光分野のサービスに関する分析等に必要、サーベイ方法、離散選択論などの基礎理論を修得し分析事例を学ぶ。 □ 経済学等のフレームから、観光サービスに係る現象を理解、分析、評価等するため、金融・投資理論、意思決定理論他の理論的な枠組みの基礎と、分析の導入について修得する。				
③授業計画・内容 授業方法	スケジュール 1 ガイダンス（サービス・観光関連産業） 2 最適化1 線形計画問題とその応用 3 最適化2 非線形最適化・経済的応用 4 応用確率過程 5 Survey Design 6 Discrete Choice Model 7 Conjoint Analysis 8 Structural Equation Model (SEM) 9 レベニューマネジメント1 10 レベニューマネジメント2 11 金融・投資・意思決定(AHP) 12 金融・投資・意思決定(ファイナンス基礎) 2 13 金融・投資・意思決定(リアル・オプション基礎) 3 14 まとめ 15 最終試験又はレポート				
④授業外学習	事前に資料等を kibaco に掲載する場合には、その資料についてあらかじめ学習してから、授業に臨むこと。				
⑤テキスト・参考書等	・テキスト 特に指定しない。(講義時に、適宜、資料を配布予定) ・参考書 David 他 ホスピタリティー産業のレベニューマネジメント 2014 流通経済大学出版社 Talluri and van Ryzin The Theory and Practice of Revenue Management Springer W.フェラー 確率論とその応用 I, II 紀伊國屋書店 1961 Bertsimas and Tsitsiklis Introduction to Linear Optimizati				
⑥成績評価方法	状況が不透明であることから、各教員の 2-13 の担当回毎に、Kibaco 等で小課題を課す。その小課題の評価(7%×12=84%)と最終の試験(又はレポート16%)を合わせて評価する。 各課題・最終試験において、習得できる知識・能力や到達度を評価する。受講者数に応じて解答方式を決定する予定。				
⑦質問受付方法(オフィスアワー等)	質問受付方法・オフィスアワー 特に指定しない。直接質問したい場合は随時受け付けるので、事前に教員にメールでアポイントメントを取ることを。 hihara@tmu.ac.jp / wuling@tmu.ac.jp / ogayu@tmu.ac.jp				
⑧特記事項(他の授業科目との関連性)	他の授業との関連性 学部の関連講義(「行動・経営科学概論」、「観光マーケティング科学」、「観光経済学」)において、観光分野に関連する、経営科学、マーケティング科学、経済学の基礎的知識を並行して習得しているか、既に修得していることが望ましい。				

N002	ホスピタリティ産業の経営戦略論	担当教員	清水 哲夫、日原 勝也	前期・水2	2単位
①授業方針・テーマ	本講義では、旅行業、宿泊業、飲食業、娯楽業などのホスピタリティ産業の事業特性と、それら産業の経営戦略の立案・実践の方法論について、理論とケーススタディを通じて学ぶ。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	混同しがちなホスピタリティ産業と観光産業の違いを理解するとともに、ホスピタリティ産業の経営戦略を、標準的な経営戦略論の枠組みから理解することを目指す。				
③授業計画・内容 授業方法	<p>【授業内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) イントロダクション 2) ホスピタリティ産業の定義と基本的な事業特性 3) 経営戦略論の基礎(1) 4) 経営戦略論の基礎(2) 5) 旅行業の事業構造とホスピタリティ(1) 6) 旅行業の事業構造とホスピタリティ(2) 7) 宿泊業の事業構造とホスピタリティ(1) 8) 宿泊業の事業構造とホスピタリティ(2) 9) 飲食業の事業構造とホスピタリティ(1) 10) 飲食業の事業構造とホスピタリティ(2) 11) 娯楽業の事業構造とホスピタリティ(1) 12) 娯楽業の事業構造とホスピタリティ(2) 13) 最終試験とまとめ <p>【授業方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第5～12回では、受講者が手分けをして、旅行業・宿泊業・飲食業・娯楽業のケース教材の内容と独自調査を組み合わせ、取られた戦略の評価や今後必要な戦略について発表を行い、広く議論を行う。 ・各回の授業後に、kibacoを通じて内容の理解度を確認するための小テストを実施する。 ・最終試験の実施形式については講義中に伝達する。 				
④授業外学習	各回の授業スライドや関連資料を前もってkibacoに準備しておくので、事前にそれを予習しておくこと。				
⑤テキスト・参考書等	<ul style="list-style-type: none"> ・経営戦略論に関する入門的参考書として以下を挙げる。 大滝・金井・山田・岩田：経営戦略—論理性・創造性・社会性の追求(第3版)、有斐閣アルマ、2016。 ・経営戦略論の理論と実践についての経緯を理解するための参考書として以下を挙げる。 琴坂将広：経営戦略言論、東洋経済新報社、2018。 ・ホスピタリティ産業の経営戦略については共通の参考書はないので、参考となるものを各回の講義時に提示する。 				
⑥成績評価方法	第2回から第12回の11回分の小テストを55点とする。発表の内容を20点とする。最終試験を25点満点とし、合計100点満点で60点以上を単位取得の条件とする。				
⑦質問受付方法（オフィスアワー等）	固定的なオフィスアワーを設定しない。質問がある場合には随時対応するので、メール等で担当教員(t-sim@tmu.ac.jp)にアポイントを取ること。				
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	<p>【他の授業科目との関連性】</p> <p>旅行業や運輸業などの観光産業の事業構造や経営戦略は「観光産業の実際(K0280)」で取り扱うので、併せて受講することを薦める。なお、事前に、または並行して、「観光マーケティング科学(K0519)」、「サービスマネジメント(K0551)」の受講を薦める。</p>				

N003	ホスピタリティ産業の財務管理論	担当教員	長谷川 恵一 *、日原 勝也	後期・火2	2 単位
①授業方針・テーマ	宿泊業・飲食業といったホスピタリティ産業の事例を中心に、企業における資金の調達や運用・管理、投資の意思決定について学ぶ。とりわけホスピタリティ産業の事業特性と、それがもたらす財務管理の特徴について理解を深める。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	ホスピタリティ産業における財務管理の基礎となる会計学の知識を習得するとともに、その知識にもとづき、ホスピタリティ産業における利益管理、資金管理のために必要な分析・評価の手法の基礎概念を理解する				
③授業計画・内容 授業方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. ホスピタリティ産業における業務と部門 2. 貸借対照表の基本 3. 損益計算書の基本 4. 会計システムの基本構造 その1 5. 会計システムの基本構造 その2 6. 会計システムの基本構造 その3 7. 会計システムの基本構造 その4 8. 貸借対照表の構造 9. 損益計算書の構造 10. 財務会計と管理会計 11. 財務諸表の分析 12. ホスピタリティ産業における管理会計情報 その1 13. ホスピタリティ産業における管理会計情報 その2 14. 宿泊施設の統一会計報告様式 (USALI) 15. まとめと試験 <p>【授業方法】講義形式で説明したのち、演習形式で練習問題を解き理解度を確認する。</p>				
④授業外学習	演習形式での練習問題を復習課題として課すことがある。また、会計システムの基本構造について、冬休みにレポートを課し、レポートの結果を成績に反映させる。				
⑤テキスト・参考書等	<p>テキスト：印刷教材を適宜配付する。</p> <p>参考書：徳江順一郎編著『サービス&ホスピタリティ・マネジメント』産業能率大学出版部、2011年。 早稲田大学商学部監修、長谷川恵一編集、2016、『観光立国日本への提言－インバウンド・ビジネスのチャンスをとらえる－』成文堂。 清水孝・長谷川恵一・奥村雅史『入門原価計算』第2版、中央経済社、2004年。 小林啓孝・伊藤嘉博・清水孝・長谷川恵一『スタンダード管理会計』東洋経済新報社、2009年。</p>				
⑥成績評価方法	試験を60%、冬季休業期間中に課すレポートを40%とする。				
⑦質問受付方法（オフィスアワー等）	オフィスアワーは特に設定しないが、直接質問したい場合は随時受け付ける（受付の方法については授業時に伝達する）。				
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	<p>【(他の授業科目との関連性) 他の科目との関連性】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 特別な知識を必要としない入門講座であり、初歩的な事項から段階的に説明していくので、ホスピタリティ産業に興味のある学生であれば履修できる。なお、毎回の授業内容を着実に理解していかないと途中で分からなくなるため、極力授業に欠席しないこと。 2) ホスピタリティ産業における様々なビジネスの事例について必要に応じて触れ、会計の概念や手法がどのように用いられているかについても解説する。 <p>【その他】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 計算問題を多く扱うので、履修生は電卓を持参すること。携帯電話等の電卓機能は試験時においては使用できないので、8桁程度の計算ができるものを準備すること。 2) 冬季休業期間中のレポートは、成績評価のうち40%の割合を占めるので、必ず提出すること。 				

N007	㊦ インターンシップ	担当教員	阿曾 真紀子 *, 清水 哲夫	夏季集中	2 単位
①授業方針・テーマ	インターンシップは、主に夏季休業期間に各自の希望する職種の民間企業、行政機関、NPO 等を選定し、観光にかかわる実務を体験するものである。この実習によって、講義では得られにくい広い素養を身につけるとともに、観光にかかわる職能や技術を広く理解することを目的とする。なお、前期卒業を予定している学生は、特記事項の内容に特に注意すること。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 観光関連産業の実務を理解することができる。 ・ 観光関連産業で求められる資質を理解することができる。 				
③授業計画・内容 授業方法	<p>[授業計画内容・授業方法]</p> <p>下記の計画に沿って事前学習（企業研究）、企業ガイダンス、職場実習（実務体験）、実習報告会を行う。これは一般社団法人 日本経済団体連合会の協力を得て実施する、3年生のみを対象とするプログラムである。2022年度の担当教員は阿曾・清水である。以下、実施予定の概要を示すが、詳細は、ガイダンスで説明する。また、都市環境学部の教務掲示版に掲示を出すので、そちらも必ず参照のこと。</p> <p>[授業計画・内容]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス ガイダンスに参加必須（やむを得ない事情で参加できない希望者は事前に科目担当教員に連絡） 2. 履修登録希望者は担当教員に連絡 以下の詳細はガイダンスで説明する。 3. 応募 4. 選抜者に連絡 5. 選抜者ガイダンス 6. 企業研究 7. 企業ガイダンス 8. 実習先希望書提出 9. 実習先発表 10. 実習先企業と派遣学生の面談 11. 実習に向けての発表会 12. 事前レポート提出 13. 実務体験（夏季休暇中の、派遣先企業・団体の休日を除く 5 日程度） 14. 実習報告書提出（実習終了後 2 週間以内） 15. 実習報告会 				
④授業外学習	インターンシップ先に関連する情報を各自で十分に収集しておくこと。				
⑤テキスト・参考書等	適宜参考文献を紹介する。				
⑥成績評価方法	事前レポート（20%）、実習報告書（30%）、及び受け入れ企業・団体の評価レポート（30%）、実習報告会（20%）の内容により評価する。				
⑦質問受付方法（オフィスアワー等）	オフィスアワーは特に設定しないが、直接質問したい場合は随時受け付ける（受付の方法については授業時に伝達する。）				
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	<p>2022 年度開始前に都市環境学部の教務掲示版に掲示を出すので、そちらも必ず参照のこと。詳細はガイダンス（参加必須）で説明する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ これは集中開講科目である。成績登録は 2022 年度の後期になされるので十分に注意すること。 ・ インターンシップは夏季休暇中の 5 日間程度実施する（土日祝日を含む可能性あり）。 ・ ガイダンス後に提出する応募用紙の記載内容（ガイダンスで説明する）を基に選抜を行う。 ・ 選抜者のこの科目の履修登録については、科目担当者側で配慮する（ガイダンスで説明する）。 ・ 指定の損害賠償保険への加入が必須となる（ガイダンスで説明する）。 ・ 履修者の希望は考慮するが、希望する実習先に配属されるとは限らない。 ・ 他の実習科目を履修する場合は、実施時期が重なる可能性があることに留意すること。 <p>[他の授業科目との関連性]</p> <p>学生サポートセンターキャリア支援課のビジネスマナー講習の受講を推奨する。</p>				

N008	海外宿泊旅行サービス研究	担当教員	平田 徳恵 *, 清水 哲夫	集中	2 単位
①授業方針・テーマ	夏休みや秋期の連休および冬休み等を利用した1週間程度の海外宿泊旅行におけるホテルやテーマパーク、交通機関等でホスピタリティあるいはサービスを経験した中で、日本的な「もてなし」との比較や差異について検討し、レポートすることで本科目の単位認定を行なう。 海外の短期語学留学・研修に参加した場合でも、帰国後、レポートを提出すれば、単位認定される。 履修希望者は、本科目の初回講義に必ず出席し、旅行計画書ならびにレポート作成のポイント・注意点について授業担当者から説明を受けなければならない。レポート提出後に報告会を実施する。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	海外旅行に出かけ、ホテルや旅館でのサービスを経験する。その実際から知見を得ることで、そのサービス経験を評価・検討できるようになる。 (今年度は国内旅行も認める)				
③授業計画・内容 授業方法	<p>[授業計画・内容]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 8月4日(木) <ul style="list-style-type: none"> ・イントロダクションおよび事前計画書および事後レポート説明 ・講義 2) 8月5日(金) <ul style="list-style-type: none"> ・講義 ・グループディスカッション 3) 8月8日(月) <ul style="list-style-type: none"> ・グループワーク ・プレゼンテーション準備 4) 8月9日(火) <ul style="list-style-type: none"> ・発表会 ・まとめ 5) 各自原則延べ7日程の旅行 <ul style="list-style-type: none"> ・第1回報告会(9月16日)発表者の旅行期間:8月10日から9月11日 ・第2回報告会(2月13日)発表者の旅行期間:9月13日から1月22日 6) 事後レポートの提出期限 <ul style="list-style-type: none"> ・第1回報告会発表者:9月12日(月) ・第2回報告会発表者:12月22日(木) ※仮提出の場合は1月26日(木) 本提出のこと。 7) プレゼンテーション準備 <ul style="list-style-type: none"> ・第1回報告会発表者:9月12日(月) ・第2回報告会発表者:12月22日(木)・1月26日(木) 8) 報告会 <ul style="list-style-type: none"> ・第1回宿泊旅行サービス研究報告会:9月16日(金) ・第2回宿泊旅行サービス研究報告会:2月13日(月) <p>[授業方法]</p> <p>事前計画書の提出は、計画した旅行の1週間前を〆切とする。各自遂行する原則延べ7日程の旅行についての旅行費用等は全額自己負担、2泊3日と3泊4日などの組み合わせは自由とする。また、海外(国内)宿泊旅行後には報告会を行う。報告会は、2回に分けて開催する。2回の報告会には履修者全員参加のこと。</p>				
④授業外学習	関連する情報を各自で収集し、読んでおくことを奨める。				
⑤テキスト・参考書等	適宜参考文献を紹介する。				
⑥成績評価方法	旅行計画書と提出レポートおよび報告会におけるプレゼンテーションの内容にて総合的に評価する。				
⑦質問受付方法(オフィスアワー等)	オフィスアワーは特に設定しない。質問がある場合は随時受け付けるので、担当教員にメール(平田連絡先:n-hirata@tmu.ac.jp)等でアポイントメントを取ること。				
⑧特記事項(他の授業科目との関連性)	<p>・本科目は、集中I期他の開講であるが、成績登録は2021年度の後期になされるため、前期卒業を予定している学生は十分に注意すること。 ※ただし本年度については、海外でなく国内における研究も認める。</p> <p>[他の授業科目との関連性] 宿泊産業論の受講を推奨する。</p>				

N005	旅行産業論	担当教員	清水 哲夫	前期・水5	2単位
①授業方針・テーマ	本講義では、観光産業の事業構造や経営戦略について、主として企業・団体・行政から提供される最新情報を通じて学習する。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	観光産業が持続的に成長するために必要な戦略、そのために必要な国や地域の政策を理解する。併せて、観光業界における将来のキャリアに対する意識を醸成する。				
③授業計画・内容 授業方法	<p>【授業内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) イントロダクション 2) 観光産業の事業構造と経営戦略(1)～旅行業の場合 3) 観光産業の事業構造と経営戦略(2)～鉄道業の場合 4) 観光産業の事業構造と経営戦略(3)～航空業の場合 5) 観光産業の事業構造と経営戦略(4)～地域づくり組織の場合 6)～13) 企業・団体・行政からの講義(旅行業・運輸業・宿泊業・ICT・DMO・MICE・飲食業・娯楽業など) <p>【授業方法】</p> <p>第2～5回では、第1回で与えられた課題について調査し、その結果を簡単に発表し、その内容をベースにワークショップ形式で議論を行う。</p> <p>第6～13回では、観光に関する企業・団体・行政から講師を招き、事業構造や経営戦略としての特徴や優位性、直面する経営上の課題とそれを解決する具体的な取り組みについて話題提供をして頂く。その内容をショートレポートとして取りまとめる。</p>				
④授業外学習	各回の授業スライドや関連資料を前もってkibacoに準備しておくので、事前にそれを予習しておくこと。				
⑤テキスト・参考書等	共通的なテキストは特に指定しない。各回の内容に応じて参考となるテキスト等を紹介する。				
⑥成績評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ ショートレポート(60%)、ワークショップ(20%)、最終レポート(20%)で評価する。 ・ 正当な理由なく6回以上欠席した場合は、原則として成績評価の対象としない。 				
⑦質問受付方法 (オフィスアワー等)	固定的なオフィスアワーを設定しない。企業・団体・行政の講師に対するものを含め、質問がある場合には随時対応するので、メール等で担当教員(清水:t-sim@tmu.ac.jp)にアポイントを取ること。				
⑧特記事項(他の授業科目との関連性)	<p>【他の授業科目との関連性】</p> <p>本講義と併せて「ホスピタリティ産業の経営戦略論(K0521/N002)」の受講を薦める。</p>				

2022年度不開講科目(観光経営副専攻コース専門教育科目)

N004	宿泊産業論	担当教員	清水 哲夫	不開講	2単位
授業方針・テーマ	本講義では、観光産業の事業構造や経営戦略について、主として企業・団体・行政から提供される最新情報を通じて学習する。				

N006	MICE	担当教員	清水 哲夫	不開講	2単位
授業方針・テーマ	観光立国推進において重要戦略分野とされている Meeting, Incentive tour, Convention, Exhibition (MICE) の各々について、政策の動向、事業主体の取組状況等について理論・実務の両面から立体的に理解する。実社会に触れる機会となることを目指す。				

観光マネジメント副専攻コース

シラバス

観光マネジメント副専攻コースの概要

副専攻コースとは

副専攻コースは、学生が、自分が所属し専攻する学科（以下「主専攻」という）とは異なる特定の専門領域について体系的に学ぶことにより、複数の領域にわたる複合的な専門知識を修得し、視野を拡大することを目的とする履修コースである。

「観光マネジメント副専攻コース」は、主たる担当部局である都市環境学部観光科学科の協力を得て運営されている

観光マネジメント副専攻コースのコンセプト

観光マネジメント副専攻コースは、多様な専門をバックグラウンドとして持ちながら、地域の観光振興を主導できる、バランス感覚に優れ多様な知識を有するリーダー候補を育成することを目的としている。そのために、観光産業の経営スキルのみならず、都市地域や自然地域での観光資源マネジメント技術に関する知識までを総合的に学習する。

対象とする学生

2018（平成30）年度以降入学の学部学生のうち、都市環境学部観光科学科所属学生を除くすべての学部学生を対象とする。とりわけ、将来、観光産業や観光行政の幹部、観光関連分野での地域リーダーとして活躍しようとする学生には、本副専攻コースの履修を推奨する。

観光マネジメント副専攻コースの履修方法

観光マネジメント副専攻コース履修の申出

観光マネジメント副専攻コースの履修を希望する学生は、2年次又は3年次の所定の履修申請期間に「副専攻コース履修申出書」に必要事項を記入し、都市環境学部教務係（9号館2階）に提出する。

なお、コース履修を希望するものは、観光マネジメント副専攻コース履修ガイダンスに、3年次までに参加し、履修方法について理解しておくことが望ましい。

観光マネジメント副専攻コースの履修科目と修了認定要件

観光マネジメント副専攻コースの修了認定要件は、次頁の表に挙げる全学共通科目、観光科学科専門教育科目、および観光マネジメント副専攻コース専門教育科目について、科目一覧の分野区分ごとの要件に従い、26単位以上（基礎科目群のうち全学必修の「情報リテラシー実践Ⅰ」「実践英語Ⅰ」をあわせて30単位以上）履修することである。

本副専攻コースに含まれる全学共通科目の単位を修得した場合、主専攻の卒業要件ならびに、本副専攻の修了認定科目に算入する事ができる。また、本副専攻コースの専門科目は、原則として、各自の主専攻の卒業要件単位に含める事ができる。（詳細は、主専攻の卒業認定要件を参照すること。）

主専攻となる学科を卒業し、かつ上記の修了認定要件を満たした者には、観光マネジメント副専攻コースを修了したことを認定するとともに、卒業時には副専攻コース修了証書が授与される。

観光マネジメント副専攻コースの各科目の履修方法

観光マネジメント副専攻コースの科目を履修する際は、通常の方法により履修申請（登録）を行うこと。「副専攻コース履修申出書」を提出していない学生であっても、本副専攻コースが開講する個々の科目を受講することは可能であるが、興味のある学生は履修申出（登録）を行うことを推奨する。

観光マネジメント副専攻コースの掲示について

観光マネジメント副専攻コースの掲示については、インフォメーションギャラリーの都市環境学部掲示板等に留意すること。

履修科目一覧

分野	区分***	1-2年次推奨 (14科目)	区分	3-4年次推奨 (10科目)	要件	
観光基礎	教	観光科学概論	/	/	2単位	合計 26単位 以上
産業	観	行動・経営科学概論	観	観光産業の実際	6単位 以上	
	教	ツーリズム産業論	観	ホスピタリティ産業の財務管理論**		
	観	ホスピタリティ産業の経営戦略論**	観	サービスマネジメント**		
理念・手法	観	観光経済学**	副	観光関連法規概説	4単位 以上	
	観	旅行者行動の心理学	/	/		
	観	観光マーケティング科学**	/	/		
地域社会	観	地域計画・マネジメント概論	観	観光地域史	4単位 以上	
	観	国土・インフラ計画と観光	/	/		
	観	観光まちづくり論	/	/		
自然環境	観	自然環境マネジメント概論Ⅰ	観	生態環境学	4単位 以上	
	観	自然環境マネジメント概論Ⅱ	/	/		
	観	生物資源学	/	/		
	観	観光地理学／観光地誌学 (隔年)	/	/		
実習	/	/	副	観光ビジネス・ゼミナール*	4単位 以上	
	/	/	副	観光マネジメント・インターンシップ*		
	/	/	副	宿泊産業・ゼミナール*		
	/	/	副	宿泊旅行サービス研究*		

*「観光ビジネス・ゼミナール」は「観光マネジメント・インターンシップ」の事前に、「宿泊産業・ゼミナール」は「宿泊旅行サービス研究」の事前に必ず受講すること。「観光ビジネス・ゼミナール」と「宿泊産業・ゼミナール」の組み合わせは要件と認めない。

**事前履修推奨科目を設定する。科目一覧は以下の通り。

事前履修推奨科目一覧

分野	区分***	観光マネジメント副専攻科目	区分	事前履修推奨科目
産業	観	ホスピタリティ産業の経営戦略論	基盤	経営学入門
			経	経営組織論
			経	経営戦略論
	観	ホスピタリティ産業の財務管理論	基盤	会計学入門
			経	原価計算論
	観	サービスマネジメント	観	観光マーケティング科学
理念・手法	観	観光経済学	基盤	統計学
	観	観光マーケティング科学	経	マーケティング・マネジメント

***区分略号

「教」は教養科目群、「基盤」は基盤科目群、「観」は観光科学科専門科目、「経」は経済経営学科専門科目、「副」は観光マネジメント副専攻コース提供科目

観光マネジメント副専攻コースの時間割

下に掲載する時間割は 2022 年度開講のものであるが、変更になる場合があるため、時間割及び授業案内（シラバス）、WEBシラバス、掲示なども必ず確認すること。

前期

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
1 限					[教]観光科学概論
2 限		[観]生態環境学	[観]ホスピタリティ 産業の経営戦略論		
3 限			[観]観光地域史		[観]観光行動論
4 限	[観]自然環境 マネジメント概論Ⅱ [観]サービスマネジ メント		[観]国土・インフラ 計画と観光		
5 限			[観]観光産業の実際		

後期

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
1 限					
2 限		[観]生物資源学 [観]ホスピタリティ 産業の財務管理論	[副]観光関連法規概説		[観]観光まちづくり論
3 限	[観]観光地理学		[教]ツーリズム産業論 [観]観光マーケティング 科学		
4 限	[観]自然環境 マネジメント概論Ⅰ		[観]行動・経営科学概論		[観]地域計画・ マネジメント概論
5 限			[観]観光経済学		

集中科目

[副]観光ビジネス・ゼミナール	[副]観光マネジメント・インターンシップ
[副]宿泊産業・ゼミナール	[副]宿泊旅行サービス研究

※区分略号一覧

全学共通科目：

教：教養科目群 基盤：基盤科目群

専門教育科目：

観：観光科学科専門教育科目

副：観光マネジメント副専攻コース専門教育科目

■ シラバス

以下には、専門教育科目のシラバスのみ掲載している。なお、これらの科目のシラバスは、全てWEBシラバスでも確認することができる。その他の全学共通科目（基礎科目群、教養科目群、基盤科目群）はWEBシラバス及び授業案内（シラバス）で確認すること。

■ 観光科学科専門教育科目

K0561	行動・経営科学概論	担当教員	日原 勝也、倉田 陽平、 相原 健郎、Wu Lingling	後期・水4	2単位
科目ナンバリング		XTM-111-1：観光マネジメント副専攻コース/UTS-106-1：都市環境学部専門科目			
①授業方針・テーマ	<p>観光の持続的な振興のためには、観光者の多様化するニーズに対応し、観光関連産業事業者にとっての利益を生みつつ、観光地環境と観光地に暮らす住民に対する配慮のあるマネジメントが求められる。この講義では、観光者行動、経営学、経済学、マーケティング、情報学、行動科学の観点から、そのような持続可能な観光の実現のために重要な、観光者や企業、地域住民など、観光に関わる多様なアクターの行動を理解し、マネジメントに生かすための理論と方法を学ぶ。</p> <p>*シラバスの内容に変更がある可能性があるので、第1回目の講義に出席して確認すること。</p>				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	<p>以下のため基本的な理論と方法の概要を理解する：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・訪問地環境、観光者の行動と住民の行動の関係を説明できる ・多様化する観光者のニーズに合った商品・サービス・経験を提供する仕組みを説明できる ・観光者の意思決定と行動のメカニズムを説明できる ・情報を通じて観光者の行動に影響を与え、彼らの顕在化しにくい行動を理解する方法を説明できる 				
③授業計画・内容 授業方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション（行動・経営科学の概要） 2. 観光ビジネスのマネジメント：制度・仕組みのマネジメント 3. 観光ビジネスのマネジメント：観光分野の経営戦略・シェアリング・エコノミー 4. 観光ビジネスのマネジメント：持続可能性に向けて 5. Modeling of tourist travel decisions: Travel generation 6. Modeling of tourist travel decisions: Tourist scheduling behavior 7. Modeling of tourist travel decisions: Post-travel evaluation 8. 情報化時代の観光者行動：訪問を誘発するしかけ 9. 情報化時代の観光者行動：多様化するニーズに応える観光情報サービス 10. 情報化時代の観光者行動：拡張現実（AR）と観光 11. 行動決定における情報の価値と選択：情報・知識・データ 12. 行動決定における情報の価値と選択：期待・価値・選択 13. 行動決定における情報の価値と選択：選択のプロセスとモデル 14. まとめ 15. 試験（又はレポート） <p>授業方法：対面又はオンライン講義形式で行う予定。講義の順番は前後することがある。</p>				
④授業外学習	<p>次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味などを理解しておくこと。</p>				
⑤テキスト・参考書等	<p>テキストは特に指定しない。講義に必要な資料は適宜配布する。参考書・参考文献は必要に応じて紹介する。</p>				
⑥成績評価方法	<p>状況により、小課題を課す場合がある。各回の授業内容に基づいて学期末に試験（又はレポート）を実施し評価する。</p>				
⑦質問受付方法（オフィスアワー等）	<p>オフィスアワーは特に指定しないが、直接質問したい場合は随時受け付けるので、事前にメール（hihara@tmu.ac.jp）でアポイントメントを取ること。</p>				
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	<p>*シラバスの内容に変更がある可能性があるので、第1回目の講義に出席して確認すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前期教養科目の「観光科学概論」と連続して履修することが望ましい。また、この科目に関連し、観光科学に関して幅広い知見を身につけるため、可能であれば、「自然環境マネジメント概論Ⅰ」および「地域計画・マネジメント概論」を受講するよう勧める。 ・5, 6, 7回目の講義は英語で行われる。受講者に準備の時間を提供するため、これらの講義回の資料は講義前にkibacoで配布する。 				

K0521	ホスピタリティ産業の経営戦略論	担当教員	清水 哲夫、日原 勝也	前期・水2	2単位
科目ナンバリング		XTM-112-1：観光マネジメント副専攻コース/UTS-263-1：都市環境学部専門科目			
①授業方針・テーマ	本講義では、旅行業、宿泊業、飲食業、娯楽業などのホスピタリティ産業の事業特性と、それら産業の経営戦略の立案・実践の方法論について、理論とケーススタディを通じて学ぶ。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	混同しがちなホスピタリティ産業と観光産業の違いを理解するとともに、ホスピタリティ産業の経営戦略を、標準的な経営戦略論の枠組みから理解することを目指す。				
③授業計画・内容 授業方法	<p>【授業内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) イントロダクション 2) ホスピタリティ産業の定義と基本的な事業特性 3) 経営戦略論の基礎(1) 4) 経営戦略論の基礎(2) 5) 旅行業の事業構造とホスピタリティ(1) 6) 旅行業の事業構造とホスピタリティ(2) 7) 宿泊業の事業構造とホスピタリティ(1) 8) 宿泊業の事業構造とホスピタリティ(2) 9) 飲食業の事業構造とホスピタリティ(1) 10) 飲食業の事業構造とホスピタリティ(2) 11) 娯楽業の事業構造とホスピタリティ(1) 12) 娯楽業の事業構造とホスピタリティ(2) 13) 最終試験とまとめ <p>【授業方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第5～12回では、受講者が手分けをして、旅行業・宿泊業・飲食業・娯楽業のケース教材の内容と独自調査を組み合わせ、取られた戦略の評価や今後必要な戦略について発表を行い、広く議論を行う。 ・各回の授業後に、kibacoを通じて内容の理解度を確認するための小テストを実施する。 ・最終試験の実施形式については講義中に伝達する。 				
④授業外学習	各回の授業スライドや関連資料を前もってkibacoに準備しておくので、事前にそれを予習しておくこと。				
⑤テキスト・参考書等	<ul style="list-style-type: none"> ・経営戦略論に関する入門的参考書として以下を挙げる。 大滝・金井・山田・岩田：経営戦略—論理性・創造性・社会性の追求(第3版)、有斐閣アルマ、2016。 ・経営戦略論の理論と実践についての経緯を理解するための参考書として以下を挙げる。 琴坂将広：経営戦略言論、東洋経済新報社、2018。 ・ホスピタリティ産業の経営戦略については共通の参考書はないので、参考となるものを各回の講義時に提示する。 				
⑥成績評価方法	第2回から第12回の11回分の小テストを55点とする。発表の内容を20点とする。最終試験を25点満点とし、合計100点満点で60点以上を単位取得の条件とする。				
⑦質問受付方法(オフィスアワー等)	固定的なオフィスアワーを設定しない。質問がある場合には随時対応するので、メール等で担当教員(t-sim@tmu.ac.jp)にアポイントを取ること。				
⑧特記事項(他の授業科目との関連性)	<p>【他の授業科目との関連性】</p> <p>旅行業や運輸業などの観光産業の事業構造や経営戦略は「観光産業の実際(K0280)」で取り扱うので、併せて受講することを薦める。なお、事前に、または並行して、「観光マーケティング科学(K0519)」、「サービスマネジメント(K0551)」の受講を薦める。</p>				

K0520	観光経済学	担当教員	日原 勝也、清水 哲夫	後期・水5	2単位
科目ナンバリング	XTM-210-1：観光マネジメント副専攻コース/UTS-201-1：都市環境学部専門科目				
①授業方針・テーマ	観光分野における諸現象について、経済学のフレームにより、情報収集・整理、分析、計画、評価、改善等するために必要な理論的知見、手法について学習する。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	<p>以下の点について、関連する理論と分析手法を習得する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光現象を経済学の観点から理解、分析、評価等するため、市場、消費者、生産者、均衡と効率性などに関する基礎的理論を習得する。 ・観光分野の統計情報、国民経済計算、観光産業の波及効果の把握についての基礎理論、分析手法を学ぶ。 ・市場を介さない観光関連の諸現象について、ゲーム理論、契約理論他の理論的な枠組みの基礎と、分析の概要を学ぶ。 				
③授業計画・内容 授業方法	<p>スケジュール</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス・観光分野の経済学への誘い 2. 観光経済を理解するための数学基礎 3. 消費者理論 4. 生産者理論 5. 市場均衡と効率性 【課題1】 6. 観光経済の循環構造(1)～産業連関分析の基礎 7. 観光経済の循環構造(2)～我が国の観光統計ラインナップとTSAの作成 8. 観光経済の循環構造(3)～観光産業の経済波及効果の把握方法【課題2】 9. 外部性と公共財 10. 独占・寡占 11. ゲーム理論① 12. ゲーム理論② 13. 契約理論【課題3】 14. 情報の経済学、行動経済学その他の関係理論 15. 最終試験又はレポート 				
④授業外学習	事前に資料等をkibacoに掲載する場合には、その資料についてあらかじめ学習してから、授業に臨むこと。				
⑤テキスト・参考書等	<ul style="list-style-type: none"> ・テキスト <p>特に指定しない。(講義時に、適宜、資料を配布予定)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参考書 <p>神取道宏 ミクロ経済学の力 2014 日本評論社 伊藤秀史 契約の経済理論 2003 有斐閣 岡田 章 ゲーム理論新版 2011 有斐閣 マンキュー 経済学 I ミクロ編 (第3版) 東洋経済新報社 2014 マンキュー 経済学 II マクロ編 (第3版) 東洋経済新報社 2012 Green 他 Microeconomic Theory 1995 Oxford Univ. Press Bolton 他 Contract Theory</p>				
⑥成績評価方法	<p>課題1から3及び最終試験(又はレポート)の結果を総合的に評価する。開講時の状況により決定するので、初回のガイダンスに出席し確認すること。</p> <p>各課題・最終試験において、習得できる知識・能力や到達度を評価する。受講者数に応じて解答方式を決定する予定。</p>				
⑦質問受付方法(オフィスアワー等)	<ul style="list-style-type: none"> ・オフィスアワー <p>特に指定しない。直接質問したい場合は随時受け付けるので、事前に教員にメールでアポイントメントを取ること。 hihara@tmu.ac.jp / t-sim@tmu.ac.jp</p>				
⑧特記事項(他の授業科目との関連性)	<ul style="list-style-type: none"> ・他の授業との関連性 <p>学部の関連講義(順次開講予定の「行動・経営科学概論」、「観光マーケティング科学」又は「サービスマネジメント」)において、観光分野に関連する、経営科学、マーケティング科学の基礎的知識を習得していることが望ましい。</p>				

K0289	観光行動論	担当教員	相原 健郎	前期・金 3	2 単位
科目ナンバリング	XTM-211-1：観光マネジメント副専攻コース/UTS-261-1：都市環境学部専門科目				
①授業方針・テーマ	観光を科学的に捉えるためには、まず正確な実態把握が必要となる。特に本講義では、旅行者の行動把握について、従来のマクロ統計とは異なるミクロな観点からの方法論とデータ収集およびデータ管理等について焦点を当てる。特に、サイバーフィジカル情報学の立場から、情報通信技術を積極的に活用する方法論と、その応用等について取り上げる。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	<ul style="list-style-type: none"> - 観光における行動把握の基本的な考え方について説明できる。 - ミクロ行動把握に関する方法論と技術について説明できる。 - サイバーフィジカル情報学としての行動把握の主な事例について説明できる。 				
③授業計画・内容 授業方法	<ul style="list-style-type: none"> - 授業の方法 - 主に資料を投影して講義を行う。オンライン実施になった場合も基本的に内容、方法は変わらない。 - 7 の議論では、受講生から行動把握についての方法論の提案を發表してもらい、広く議論を行う。 - 各回の授業後に、kibaco を通じて内容の理解度を確認するための小テストを実施する。 - 最終試験の実施形式については講義中に伝達する。 - 日程 2-3 回程度の講義をひとまとまりとしてテーマ設定を行う。以下のように進める予定だが、内容や順番を一部変更する場合がある。 <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス、イントロダクション 2. 観光における行動把握の基礎 3. ミクロ行動把握の基本 4. データ取得の方法論 5. データ収集・管理の方法論 6. 取り組み例 7. 行動把握手法に関する議論 8. 最終試験とまとめ 				
④授業外学習	各回の授業スライドや関連資料を前もって kibaco にて配布するので、事前にそれを予習しておくこと。				
⑤テキスト・参考書等	特に定めない。				
⑥成績評価方法	小テストの合計を 40 点とする。発表の内容を 20 点とする。最終試験を 40 点とし、合計 100 点満点で 60 点以上を単位取得の条件とする。				
⑦質問受付方法（オフィスアワー等）	特に固定的なオフィスアワーは定めない。質問等がある場合は、電子メール（ kenro.aihara@tmu.ac.jp ）までコンタクトすること。				
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）					

K0519	観光マーケティング科学	担当教員	Wu Lingling	後期・水3	2単位
科目ナンバリング	XTM-212-1：観光マネジメント副専攻コース/UTS-262-1：都市環境学部専門科目				
①授業方針・テーマ	In this lecture, the basic concepts and theories in tourism marketing will be introduced. It also provides an opportunity to understand data-based scientific marketing through the introduction of data analysis examples in different case studies.				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	<ul style="list-style-type: none"> • Understand the basic concepts and theories in tourism marketing • Become familiar with the strategic marketing planning process • Recognize the key trends in tourism market • Be familiar with different techniques that can be used in tourism marketing research 				
③授業計画・内容 授業方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction Introduction of the basic concepts in marketing generally and tourism marketing more specifically. 2. The tourism marketing environment The dynamic external and internal environment within which the tourism industry operates will be explained. 3. Trends in tourism consumption The key trends of tourism demand will be reviewed; and the factors that drive the diversity of behavior observed in the tourism market will be discussed. 4. Market segmentation The main stages of the segmentation process and the various categories of segmentation criteria will be explained. 5. Marketing Mix - Tourism product 6. Marketing Mix - Pricing 7. Marketing Mix - Distribution channels 8. Marketing Mix - Advertising and promotion 9. Tourism marketing planning Tourism marketing principles and marketing planning process will be lectured. 10. Technology and marketing (1) The applications of recent technology development (e.g., ICT, big data analytics, social media) in tourism marketing will be introduced. 11. Technology and marketing (2) The applications of recent technology development (e.g., ICT, big data analytics, social media) in tourism marketing will be introduced. 12. Tourism marketing research (1) The framework and steps that characterize a research project will be introduced. 13. Tourism marketing research (2) Useful methodologies and techniques in tourism marketing research will be lectured. 14. The future of tourism marketing The contemporary drivers for change in the wider environment shaping the future of tourism marketing will be discussed. 15. Final examination 				
④授業外学習	As a general rule, the handout will be delivered through kibaco before each lecture. Students should read it before each lecture.				
⑤テキスト・参考書等	Students are not required to purchase any textbook. The following is the recommend reading list: Kotler, P. et al, (2017), Marketing for Hospitality and Tourism, Pearson. Hudson, S. (2017), Marketing for Tourism, Hospitality & Events: A Global & Digital				
⑥成績評価方法	20% based on report and 80% based on the final exam.				
⑦質問受付方法 (オフィスアワー等)	Students are requested to contact Dr. Wu by email (wuling@tmu.ac.jp).				
⑧特記事項 (他の授業科目との関連性)	The whole module will be offered in English.				

K0489	地域計画・マネジメント概論	担当教員	清水 哲夫、岡村 祐、川原 晋、 大平 悠季	後期・金 4	2 単位
科目ナンバリング	XTM-113-1：観光マネジメント副専攻コース/UTS-104-1：都市環境学部専門科目				
①授業方針・テーマ	生活や生業の場である都市や集落地域の空間や建造物と、そこで生まれる有形、無形の文化を観光資源として活用する観光や、その観光を通して地域環境の改善や魅力向上のための実践的な計画・実現手法の初歩を学ぶ。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	観光に深く関わる都市・地域計画や社会基盤計画の学問分野を対象に、分野横断的な計画・マネジメントプロセスと、プロセスに内在する分析・評価・実現のための技術体系の基礎を身につける。				
③授業計画・内容 授業方法	<p>【授業内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 都市・農村・インフラ・観光分野の計画・マネジメント思想を比較する 2) 都市とは何か？ 3) 近代都市計画の誕生 4) 都市の計画・規制・事業（狭義の都市計画） 5) 現代都市における都市計画の役割・ひろがり（緑地、景観、防災、広域等） 6) まちづくりの方法 1～概論 7) まちづくりの方法 2～参加のデザイン 8) 都市デザイン：都市戦略、空間形成、実践運動の3つの位相から 9) 農村計画と観光むらづくり 10) 交通事業・計画の考え方と地域コミュニティ向けモビリティ 11) 都市交通システムと都市構造 12) 都市を結ぶ交通：航空・新幹線・高速バスの計画・事業特性 13) 実際の観光地域づくりプロジェクトを題材とした議論(1) 14) 実際の観光地域づくりプロジェクトを題材とした議論(2) 15) 試験と解説 <p>【授業方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第 1～14 回では、講義後に内容の理解度を確認するために、kibaco を使用して簡単な小テスト（フィードバック提出の場合もある）を実施する。 ・第 13～14 回では、実際の観光地域づくりプロジェクトを議論する。事前準備課題を課した上でワークショップまたは演習形式で進める。 				
④授業外学習	各回の授業スライドや関連資料を前もって kibaco に準備しておくので、事前にそれを予習しておくこと				
⑤テキスト・参考書等	取り扱う内容が多岐に渡るため、特定のテキストは使用しない。初回および各回で参考とすべき論文、テキスト、書籍等を提示する。				
⑥成績評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・小テスト(25%)、講義への貢献(15%)、最終試験(60%)で評価する。 ・正当な理由なく6回以上欠席した場合は、原則として成績評価の対象としない。 				
⑦質問受付方法（オフィスアワー等）	<p>固定的なオフィスアワーを設定しない。質問がある場合には随時対応するので、メール等で担当教員にアポイントを取ること。</p> <p>清水哲夫：t-sim@tmu.ac.jp 川原晋：s_kawara@tmu.ac.jp 岡村祐：okamura@tmu.ac.jp 大平悠季：ohira@tmu.ac.jp</p>				
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）					

K0174	国土・インフラ計画と観光	担当教員	清水 哲夫、大平 悠季	前期・水4	2単位
科目ナンバリング		XTM-213-1：観光マネジメント副専攻コース/UTS-241-1：都市環境学部専門科目			
①授業方針・テーマ	本講義では、国土や広域スケールの空間やインフラの計画・マネジメントプロセスの基礎理論を学習するとともに、それらを観光振興に応用するための基本的考え方を理解する。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	国・地域・都市で持続的な観光振興に不可欠となる、国土・地域・都市スケールの空間計画・マネジメント、およびグレー・グリーンインフラの整備・管理の計画・マネジメントの技法を身につけさせると同時に、それを観光振興に応用するための技術を身につけさせることを目指す。				
③授業計画・内容 授業方法	<p>【授業内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) イントロダクション～観光振興における国土・インフラ計画 2) 国土利用計画・マネジメントの考え方 3) 緑地計画・マネジメントの考え方(1) 4) 緑地計画・マネジメントの考え方(2) 5) 水資源/エネルギー計画・マネジメントの考え方 6) 交通インフラ計画・マネジメントの考え方 7) 交通需要の分析手法(1) 8) 交通需要の分析手法(2) 9) 交通インフラプロジェクトの評価方法 10) 観光における環境価値推計方法(1) 11) 観光における環境価値推計方法(2) 12) 本源的需要としての交通 13) インフラツーリズムの理念 14) サステナブルツーリズムの考え方 15) 最終試験とまとめ <p>【授業方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受講人数を考慮して講師による講話形式による授業とするが、質問に答えさせたりするなど、可能な限りインタラクティブな運営とする。各回の授業後に、kibaco を通じて内容の理解度を確認するための小テストを実施する。 ・最終試験の方法については講義中に伝達する。 				
④授業外学習	各回の授業スライドや関連資料を前もって kibaco に準備しておくので、事前にそれを予習しておくこと。				
⑤テキスト・参考書等	共通的なテキストは特に指定しない。各回の内容に応じて参考となるテキスト等を紹介する。				
⑥成績評価方法	・小テスト 55%、最終試験 45%で評価する。				
⑦質問受付方法（オフィスアワー等）	固定的なオフィスアワーを設定しない。質問がある場合には随時対応するので、担当教員にメール (t-sim@tmu.ac.jp) でアポイントを取ること。				
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	<p>【他の授業科目との関連性】</p> <p>講義内容を適切に理解するために、事前に地域計画・マネジメント概論 (K0489) の受講を薦める。</p>				

K0175	観光まちづくり論	担当教員	川原 晋	後期・金2	2単位
科目ナンバリング		XTM-214-1：観光マネジメント副専攻コース/UTS-242-1：都市環境学部専門科目			
①授業方針・テーマ	2022年度は、主担当教員が1年間サバティカル（特別研究期間）のため、非常勤講師により後期集中で開講予定である。詳細は後期開始までに決まり次第、情報更新する。以下は、参考までに、例年の内容である。 ・観光まちづくりの視点での「地域資源の見出し方」と具体的な「計画技術」を論じる。 ・観光分野と都市計画分野の手法を合わせ、良質な空間環境の保全・創出と、そこでの良質な観光コンテンツの創出との両輪を進める方法を論じる。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	都市・地域のなかから観光資源を発見しその魅力を読み解く方法やそれを観光対象化する方法と、また論理的かつビジュアルに伝えるためのプレゼンテーション方法を習得することを目標とする。 ・地域にある様々な素材を地域資源として価値化し、観光者が楽しめるように観光対象化するための見方や考え方の習得を目指す。また、それを論理的かつビジュアルに伝えるための多様な図解表現の方法を学ぶ。				
③授業計画・内容 授業方法	<p>■授業計画・内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス、「観光まちづくり」とは何か (空間資源と地域の魅力) 2. 都市構造が生み出す地域の魅力(近世城下町、宿場町、門前町等の都市を読み解く方法) 3. 都市建築と公共空間が生み出す地域の魅力(集住の形、町家、中間領域、回遊空間) 4. 公園、緑地が生み出す地域の魅力(都市の中の自然、参加のデザイン) 5. 景観が生み出す地域の魅力(景観の概念、景観と観光開発、生活景、景観形成手法) (地域産業と観光) 6. 中心市街地の産業と観光まちづくり(中心市街地再生、エリアリノベーション) 7. 工業と観光まちづくり【大田オープンファクトリーの視察】 8. 中山間地域の産業と観光まちづくり(農山漁村の存続に向けた観光の取り組み) (地域経済・経営と観光まちづくり) 9. 地域経済の見直しと取り戻し(経済流出の実態) 10. 観光地経営、地域ブランディング(DMO、地域ブランドという地域資源) <地域のソフト資源と観光まちづくり> 11. 人的資源の繋げ方と活かし方(「ホスト・ゲスト」を越えた地域と人との関係づくり) 12. 文化資源イベントとしての祭り(伝統的祭、社会実験としてのイベント) 13. MICEとユニークベニュー(大型集客イベントの活かし方、地域性のある場の活用) (総括) 14. 計画手法として各講義を振り返る(地域観光プランニング)、まちづくりに関わる仕事の俯瞰 15. テスト・講評 				
④授業外学習	kibacoにて事前に読んでおく資料を配布する。 また授業中に紹介する参考図書や、配布する資料を授業後に読んで、次回の授業に出席することが望まれる。授業内で行うミニ演習では、作業や思考の仕方を演習するので、授業外の時間で演習作業を完結させること。				
⑤テキスト・参考書等	テキストは特に指定しない。必要な参考資料は適宜配布する。				
⑥成績評価方法	平常点(30%)＋期末テスト(70%)によって総合的に評価を行う。 出席は、毎回の感想カードをkibacoで提出することで判断する。 出席が7割に満たないものは、成績評価対象としない。				
⑦質問受付方法(オフィスアワー等)	オフィスアワーは随時。事前にs_kawara@tmu.ac.jpに連絡すること。				
⑧特記事項(他の授業科目との関連性)	<ul style="list-style-type: none"> ・3年前期の「観光科学プロジェクト演習Ⅱ」の基礎となるので、本科目を2年次に履修しておくことが望ましい。 ・各回の演習で色鉛筆を使用する。赤、青、黄色、緑、茶色、オレンジ、紫を少なくとも用意すること。その他、演習課題に必要な道具類については、初回ガイダンス時になどに説明する。 				

K0232	自然環境マネジメント概論 I	担当教員	沼田 真也、大澤 剛士、 仁平 尊明	後期・月 4	2 単位
科目ナンバリング		XTM-114-1：観光マネジメント副専攻コース/UTS-102-1：都市環境学部専門科目			
①授業方針・テーマ	自然ツーリズム学の基本的な理念と考え方・方法論を学ぶとともに、そのフレームワークを用いた自然環境や環境資源の保全・保護と適正利用の仕方と、それらの調整方法を身につける。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	自然ツーリズムにおいて、陸域、陸水と海洋の生態系を含む自然環境の変化や環境資源を的確に把握することは重要であり、その把握する方法を習得する。また自然ツーリズムでは、生物多様性の保全しながら、自然災害の拡大を回避するため、自然環境資源の保全・保護と適正利用をとともに図り、調整することも重要であり、それらの方法も習得する。また、授業の一環として野外実習を実施する。				
③授業計画・内容 授業方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 自然ツーリズム学の枠組みと本質・方法論 (仁平) 2. 自然環境と半自然環境：人間と生態系の関わり (大澤) 3. 自然環境の利活用 1：農業生態系とそこから得られる資源 (大澤) 4. 自然環境の利活用 2：資源の利用と土地利用 (大澤) 5. 野外実習：市民参加型調査の実践 (大澤) 6. 自然保護と法 (沼田) 7. 世界の主な自然保護地域制度 (沼田) 8. 日本の自然保護地域制度 (沼田) 9. 野外実習：里山保全の本質と基本 - 暁町緑地保全地域から学ぶ - (沼田) 10. 自然環境と地域構造 (上) (仁平) 11. 自然環境と地域構造 (下) (仁平) 12. 農山村の風景の見方 (仁平) 13. 野外実習：自然ツーリズムの風景をあるく、みる、きく (仁平) 14. 試験とまとめ (仁平) 				
④授業外学習	講義内容の予習復習として以下の書籍を推薦する。 菊地俊夫・有馬貴之編著 (2015)：「自然ツーリズム学」朝倉書店。				
⑤テキスト・参考書等	テキストは特に指定しない。講義に必要な資料は適宜配布する。参考書・参考文献も適宜紹介する。				
⑥成績評価方法	各回の授業内容に基づいて試験ないしはレポートの提出を行う。また、野外実習により簡単なレポートを作成する。それらによって評価する。ただし、出席が 70%に満たないものは評価の対象としない。				
⑦質問受付方法 (オフィスアワー等)	オフィスアワーは、事前に E メールで各教員に連絡を取ること。				
⑧特記事項 (他の授業科目との関連性)	野外実習は土曜日ないし日曜日に実施する。その日程は第 1 回の授業で相談して決める。				

K0118	自然環境マネジメント概論Ⅱ	担当教員	沼田 真也、大澤 剛士、 仁平 尊明	前期・月4	2単位
科目ナンバリング		XTM-215-1：観光マネジメント副専攻コース/UTS-224-1：都市環境学部専門科目			
①授業方針・テーマ	自然ツーリズム学の理念と考え方・方法論を学ぶとともに、自然ツーリズム学のフレームワークを用いた自然環境や環境資源の保全・保護と適正利用の仕方と、それらの調整方法を身につける。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	原則として自然ツーリズム学概論Ⅰを履修していることが受講の条件である。この講義で陸域、陸水と海洋の生態系を含む自然環境の変化や環境資源を的確に把握することは重要であり、そのための応用的・専門的知識の理解を深める。また、自然や環境資源を的確に把握する方法を習得することはもちろんのこと、それらの方法を地域や環境に適応させ生物多様性の保全しながら、自然災害の拡大を回避するための方法論を学ぶ。さらに、自然保護と適正利用をとともに図り、調整する方法も習得し、その実践的な可能性を専門的な知識を基盤にして詳細に検討する。講義では、授業の一環として、自然ツーリズムに関する専門的な知識や技能を実践するために野外実習を実施する。実習を通じて自然や環境、あるいは地域の総合的に理解することを学ぶ。				
③授業計画・内容 授業方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 自然ツーリズム学の応用とその視点 (仁平) 2. 半自然環境の保全と適正利用：人間が介在する生態系と管理 (大澤) 3. 半自然環境の保全と適正利用：資源の利用価値と非利用価値 (大澤) 4. 野外実習：モバイルデバイスを利用した資源調査の実践 (大澤) 5. 室内実習：調査結果の視覚化・オープン化 (大澤) 6. 自然環境の保全と適正利用とは (沼田) 7. 自然の適正利用：自然保護地域における観光と訪問者の管理 (沼田) 8. 自然の適正利用：自然保護地域マネジメントの原理原則 (沼田) 9. 自然の適正利用：自然保護地域におけるビジネス・財務管理の考え方 (沼田) 10. 野外実習：里山保全の方法と現状-眺町緑地保全地域の実践を通じて (沼田) 11. 地域資源の保全と適正利用：地理的事象の立地 (仁平) 12. 地域資源の保全と適正利用：地理学の現地調査 (仁平) 13. 地域資源の保全と適正利用：地理的事象の伝播 (仁平) 14. 野外実習：地域資源の保全と適正利用を景観から読み解く (仁平) 15. 試験とまとめ (仁平) 				
④授業外学習	講義内容の予習復習として以下の書籍を推薦する。 菊地俊夫・有馬貴之編著 (2015)：「自然ツーリズム学」朝倉書店。				
⑤テキスト・参考書等	テキストは特に指定しない。講義に必要な資料は適宜配布する。参考書・参考文献も適宜紹介する。				
⑥成績評価方法	試験ないしはレポート、および野外実習の参加状況によって評価する。ただし、出席が70%に満たないものは評価の対象としない。				
⑦質問受付方法 (オフィスアワー等)	オフィスアワーは、事前にEメールで各教員に連絡を取ること。				
⑧特記事項 (他の授業科目との関連性)	野外実習は土曜日ないし日曜日に実施する。その日程は第1回の授業で相談して決める。 原則として、自然環境マネジメント概論Ⅰを履修していること。				

K0278	生物資源学	担当教員	大澤 剛士	後期・火2	2単位
科目ナンバリング		XTM-216-1：観光マネジメント副専攻コース/UTS-223-1：都市環境学部専門科目			
①授業方針・テーマ	生物資源は、生物多様性および生態系から得られる恵み、すなわち生態系サービスと捉えることができる。このため、生物資源を理解するためには、その供給源となる生物多様性および生態系に対する理解が欠かせない。本講義は、生物資源の供給源である生物多様性および生態系への理解を、基礎生態学を機軸として学ぶことで、生物資源の持続的利用に向けた基本的な考え方を身に着けることを狙いとする。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	生態学の基本である生物と環境の関係性についての基礎的な知識を習得し、自然資源管理における生態学の役割を理解する。さらには習得した知識を基盤とし、生物資源の持続的な利用に向けた論理的な考え方を議論する力を身に着ける。このため、前半では生態学の基礎的な内容を、中盤以降からこれらを資源利用に活用するための応用的な内容を扱う。				
③授業計画・内容 授業方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業の方法 液晶プロジェクターによる投影資料を主に、適宜板書を利用する。学内あるいは徒歩圏の周辺を対象にフィールドワーク、ならびに講義内でディスカッションを目的としたワークショップを実施する予定。新型コロナウイルス感染症の感染状況を見ながら、オンラインとオフラインを組み合わせたハイブリッド型、あるいはオンラインのみへの移行もありうる。現時点でオンデマンド型は予定していない。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 日程 2-3 回程度の講義をひとまとまりとしてテーマ設定を行う。以下のように進める予定だが、内容や順番を一部変更する場合がある。フィールドワークの実施日程は天候等を見ながら事前に通知する。 <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 生態学の基礎と考え方 3. 生態学と社会問題の接点 4. 生物多様性と生物資源、生態系サービス 5. 保全科学/生物多様性情報学 6. 全体まとめ 				
④授業外学習	各回において資料を電子媒体で配布するので、予習復習に利用すること。				
⑤テキスト・参考書等	資料は基本的に毎回電子媒体で配布する。参考図書も適宜紹介する。資料は電子媒体で配布するため、講義にパソコンをはじめとするデバイスを持ち込んでかまわない。				
⑥成績評価方法	講義内のミニレポート（合計 60 点）および試験（40 点）で評価する。オンライン実施になった場合は別途周知する。				
⑦質問受付方法（オフィスアワー等）	質問については各回でコメントカードを配布し、同時に web フォームを提示するので、それを利用することを推奨する。必要に応じてメール等での対応も受け付ける。				
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	環境生態学 I と生物資源学は同時開講科目である。				

K0282	観光地理学	担当教員	仁平 尊明	後期・月3	2単位
科目ナンバリング		XTM-218-1:観光マネジメント副専攻コース/ UTS-226-1:都市環境学部専門教育科目			
①授業方針・テーマ	<p>地理学の視点から自然ツーリズムを考察するための概念を講義します。 2022年度は北米大陸を事例として、地形、気候、歴史、文化、人口、農業、その他の産業について講義をします。 各講義の最初には、自然と人に関するキーワードの解説をします。</p>				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	<p>(1) 自然と人の関係を地理学の視点から理解する。 (2) 自然ツーリズムの基礎となる自然景観の見方を理解する。 (3) 北米の地誌を理解する。 (4) 地図やグラフによる表現、写真の使い方等、地理学の方法を理解する。</p>				
③授業計画・内容 授業方法	<p>第1回 北米大陸 第2回 地形、地質 第3回 地形と観光地 第4回 温暖湿潤気候、亜寒帯気候 第5回 砂漠気候、地中海性気候、西岸海洋性気候 第6回 気候と災害 第7回 先住民、ヨーロッパ人の移民 第8回 (書を閉じて、野原へ出よう) * 第9回 西部開拓、大陸横断鉄道 第10回 都市構造 第11回 民族、人口 第12回 農村の景観 第13回 道路網、鉄道網、航空網 第14回 サンベルト、フロストベルト 第15回 西海岸から中西部を巡る *ミニ巡検の予定。受講生の人数等により、座学になる場合があります。</p>				
④授業外学習	<p>授業外学習として、以下の参考書を予習・復習のために推薦します(該当する箇所を読む)。 ・University of Minnesota Libraries Publishing Edition 2016. World regional geography: people, places and globalization. ・菊地俊夫編著(2017):「ツーリズムの地理学」二宮書店。</p>				
⑤テキスト・参考書等	<p>テキストは指定しません。講義の資料はインターネットで配布します。</p>				
⑥成績評価方法	<p>最終課題(レポート)で評価します。また授業への参加態度(出席)、授業へのコメント、小課題も参考にします。</p>				
⑦質問受付方法(オフィスアワー等)	<p>Eメールで教員に連絡を取って下さい。授業後にも伺います。</p>				
⑧特記事項(他の授業科目との関連性)	<p>偶数年度開講のため、2022年度は開講する。</p>				

K0279	生態環境学	担当教員	沼田 真也	前期・火2	2単位
科目ナンバリング		XTM-314-1：観光マネジメント副専攻コース/UTS-321-1：都市環境学部専門科目			
①授業方針・テーマ	自然生態系の多くは様々な脅威にさらされており、不適切な観光開発や管理によって簡単に失われてしまう。そのため、自然環境の観光利用を適切に進めるためには、対象となる自然環境を科学的にとらえ、その特性や脆弱性などを適切に把握していくことが求められる。本授業では国立公園等の保護地域の制度的枠組み、国内外における取り組みと、ツーリズムを含む自然環境のマネジメントにおいて応用可能な環境学、生態学の基本的な理論と応用事例を学ぶ。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	保護地域の制度的枠組み、国内外における取り組みと生態学の理論や応用例を学ぶことで、ツーリズムや自然環境のマネジメントにおける環境学、生態学の位置づけや役割について理解を深める。そして、保護地域におけるツーリズムの事例を通じて、応用可能な生態学の理論や方法論を学ぶことを目的とする。				
③授業計画・内容 授業方法	1. ガイダンス 2. 様々な自然に関わるツーリズム 3-5. 保護地域と自然ツーリズム（制度的枠組み、国際動向、ケーススタディ） 6-7. 生態学の基礎（様々な生態系、生態系の変化と機能、生態系の構成要素） 8-9. 植物生態学（世界の植生と遷移、植物の生理生態と生活史） 10-11. 動物生態学（動物の社会、行動、人間社会との軋轢） 12-14. 自然環境の保全と管理（保護地域のデザイン、管理・経営、自然体験と保全意識） 15. 試験・解説				
④授業外学習	今回の授業範囲を予習し、専門用語の意味等を理解しておくこと。				
⑤テキスト・参考書等	講義に必要な資料は適宜配布する。以下の書籍の内容を中心に紹介する予定である。 ・よくわかる観光学 2 自然ツーリズム学（菊地、有馬）朝倉書店 ・生態学入門（日本生態学会）東京化学同人				
⑥成績評価方法	出席状況を勘案しながら、試験もしくはレポートによって評価する。				
⑦質問受付方法（オフィスアワー等）	質問については、随時メールで受け付ける（nmt@tmu.ac.jp）。				
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）					

K0288	観光地域史	担当教員	岡村 祐	前期・水3	2単位
科目ナンバリング		XTM-313-1：観光マネジメント副専攻コース/UTS-341-1：都市環境学部専門科目			
①授業方針・テーマ	我が国における近世以降の観光政策・観光計画・観光開発に焦点を当て、どのような社会経済状況のもとで、どのような主体によって、何を目的に実施されたのかを論じる。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	観光都市・観光地域に対する歴史的パースペクティブや、観光地の空間を読み解く力を身につけることを目標とする。具体的には、現在の観光地域が、歴史的な文脈において、どのように位置づけられるのか理解するとともに、過去に創造された観光地域の空間・文化が、現代社会のなかにもどのように継承され、その魅力や価値がどのように評価され、どのように活用されているのか理解する。				
③授業計画・内容 授業方法	<p>■授業計画・内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. 観光インフラとしての街道・宿場町の整備 3. 宗教の観光対象化 4. 名所・行楽地の形成 5. 都市・建築の西洋化による近代観光地の形成 6. 鉄道網の発展と観光振興 7. 都市の拡張とレクリエーション空間の形成 8. 戦後復興期の「国際的」観光空間の創出 9. 国際イベントとそのレガシー 10. 歴史的町並み保全と観光振興 11. 大規模リゾートの構想と開発 12. 観光まちづくりの時代 13. 通史で見る観光地域 14. 各地の観光地域史 15. まとめと試験 <p>■授業方法</p> <p>基本的には講義形式だが、授業後半ではレポート課題の発表を行ってもらう。</p>				
④授業外学習	授業中に紹介する参考図書や、配布する資料を授業後に読んで、次回の授業に出席することが望まれる。授業で習得した見方・考え方に基づき、受講生が各地の観光地域史を調査し、レポートとしてまとめて、最後に発表する。				
⑤テキスト・参考書等	テキストは特に指定しない。 授業中にレジュメ等を配布する。				
⑥成績評価方法	授業のフィードバックシート（10%）＋学期中のレポート課題（40%）＋期末テスト（50%）によって総合的に評価を行う。 出席が7割に満たないものは、成績評価対象としない。				
⑦質問受付方法（オフィスアワー等）	授業に関して、相談等がある場合は事前に担当教員までメール（okamura@tmu.ac.jp）で連絡を取ること。				
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	後期に「観光都市論（旧科目名：観光まちづくり論 II）」を開講するので、併せて受講すると当該分野における理解が深まる。				

K0551	サービスマネジメント	担当教員	日原 勝也、Wu Lingling、 小笠原 悠	前期・月 4	2 単位
科目ナンバリング		XTM-312-1：観光マネジメント副専攻コース/UTS-362-1：都市環境学部専門科目			
①授業方針・テーマ	観光分野における諸ビジネス・業務は、サービス提供を中心としてなされており、サービスとしての特性に応じて構築されてきた経営科学、マーケティング科学、経済学等各分野のフレームにより、観光分野の諸現象につき、情報収集・整理、分析、計画、評価、改善等するために必要な理論的知見、手法について習得する。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	以下の点について、関連する理論と分析手法を習得する。 <input type="checkbox"/> 観光分野のサービスを、経営科学のフレームから分析等するために必要な、最適化、確率過程他の基礎的理論と分析手法の概要を習得する。 <input type="checkbox"/> マーケティング科学のフレームから、観光分野のサービスに関する分析等に必要な、サーベイ方法、離散選択理論などの基礎理論を修得し分析事例を学ぶ。 <input type="checkbox"/> 経済学等のフレームから、観光サービスに係る現象を理解、分析、評価等するため、金融・投資理論、意思決定理論他の理論的な枠組みの基礎と、分析の導入について修得する。				
③授業計画・内容 授業方法	スケジュール 1 ガイダンス（サービス・観光関連産業） 2 最適化1 線形計画問題とその応用 3 最適化2 非線形最適化・経済的応用 4 応用確率過程 5 Survey Design 6 Discrete Choice Model 7 Conjoint Analysis 8 Structural Equation Model (SEM) 9 レベニューマネジメント1 10 レベニューマネジメント2 11 金融・投資・意思決定(AHP) 12 金融・投資・意思決定(ファイナンス基礎) 2 13 金融・投資・意思決定(リアル・オプション基礎) 3 14 まとめ 15 最終試験又はレポート				
④授業外学習	事前に資料等を kibaco に掲載する場合には、その資料についてあらかじめ学習してから、授業に臨むこと。				
⑤テキスト・参考書等	・テキスト 特に指定しない。(講義時に、適宜、資料を配布予定) ・参考書 David 他 ホスピタリティー産業のレベニューマネジメント 2014 流通経済大学出版社 Talluri and van Ryzin The Theory and Practice of Revenue Management Springer W.フェラー 確率論とその応用 I, II 紀伊國屋書店 1961 Bertsimas and Tsitsiklis Introduction to Linear Optimizati				
⑥成績評価方法	状況が不透明であることから、各教員の 2-13 の担当回毎に、Kibaco 等で小課題を課す。その小課題の評価(7%×12=84%)と最終の試験(又はレポート 16%)を合わせて評価する。 各課題・最終試験において、習得できる知識・能力や到達度を評価する。受講者数に応じて解答方式を決定する予定。				
⑦質問受付方法(オフィスアワー等)	質問受付方法・オフィスアワー 特に指定しない。直接質問したい場合は随時受け付けるので、事前に教員にメールでアポイントメントを取る事。 hihara@tmu.ac.jp / wuling@tmu.ac.jp / ogayu@tmu.ac.jp				
⑧特記事項(他の授業科目との関連性)	他の授業との関連性 学部の関連講義(「行動・経営科学概論」、「観光マーケティング科学」、「観光経済学」)において、観光分野に関連する、経営科学、マーケティング科学、経済学の基礎的知識を並行して習得しているか、既に修得していることが望ましい。				

K0280	観光産業の実際	担当教員	清水 哲夫	前期・水5	2単位
科目ナンバリング		XTM-310-1：観光マネジメント副専攻コース/UTS-313-1：都市環境学部専門科目			
①授業方針・テーマ	本講義では、観光産業の事業構造や経営戦略について、主として企業・団体・行政から提供される最新情報を通じて学習する。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	観光産業が持続的に成長するために必要な戦略、そのために必要な国や地域の政策を理解する。併せて、観光業界における将来のキャリアに対する意識を醸成する。				
③授業計画・内容 授業方法	<p>【授業内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) イントロダクション 2) 観光産業の事業構造と経営戦略(1)～旅行業の場合 3) 観光産業の事業構造と経営戦略(2)～鉄道業の場合 4) 観光産業の事業構造と経営戦略(3)～航空業の場合 5) 観光産業の事業構造と経営戦略(4)～地域づくり組織の場合 6)～13) 企業・団体・行政からの講義(旅行業・運輸業・宿泊業・ICT・DMO・MICE・飲食業・娯楽業など) <p>【授業方法】</p> <p>第2～5回では、第1回で与えられた課題について調査し、その結果を簡単に発表し、その内容をベースにワークショップ形式で議論を行う。</p> <p>第6～13回では、観光に関係する企業・団体・行政から講師を招き、事業構造や経営戦略としての特徴や優位性、直面する経営上の課題とそれを解決する具体的な取り組みについて話題提供をして頂く。その内容をショートレポートとして取りまとめる。</p>				
④授業外学習	各回の授業スライドや関連資料を前もって kibaco に準備しておくので、事前にそれを予習しておくこと。				
⑤テキスト・参考書等	共通的なテキストは特に指定しない。各回の内容に応じて参考となるテキスト等を紹介する。				
⑥成績評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ ショートレポート(60%)、ワークショップ(20%)、最終レポート(20%)で評価する。 ・ 正当な理由なく6回以上欠席した場合は、原則として成績評価の対象としない。 				
⑦質問受付方法(オフィスアワー等)	固定的なオフィスアワーを設定しない。企業・団体・行政の講師に対するものを含め、質問がある場合には随時対応するので、メール等で担当教員(清水：t-sim@tmu.ac.jp)にアポイントを取ること。				
⑧特記事項(他の授業科目との関連性)	<p>【他の授業科目との関連性】</p> <p>本講義の前、あるいは併せて「ホスピタリティ産業の経営戦略論(K0521/N002)」の受講を薦める。</p> <p>【同時開講科目】</p> <p>「観光産業の実際(K0280)」と観光経営副専攻コースの科目の「旅行産業論(N005)」は同時開講である。</p>				

K0531	ホスピタリティ産業の財務管理論	担当教員	長谷川 恵一 *、日原 勝也	後期・火2	2 単位
科目ナンバリング		XTM-311-1：観光マネジメント副専攻コース/UTS-363-1：都市環境学部専門科目			
①授業方針・テーマ	宿泊業・飲食業といったホスピタリティ産業の事例を中心に、企業における資金の調達や運用・管理、投資の意思決定について学ぶ。とりわけホスピタリティ産業の事業特性と、それがもたらす財務管理の特徴について理解を深める。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	ホスピタリティ産業における財務管理の基礎となる会計学の知識を習得するとともに、その知識にもとづき、ホスピタリティ産業における利益管理、資金管理のために必要な分析・評価の手法の基礎概念を理解する				
③授業計画・内容 授業方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. ホスピタリティ産業における業務と部門 2. 貸借対照表の基本 3. 損益計算書の基本 4. 会計システムの基本構造 その1 5. 会計システムの基本構造 その2 6. 会計システムの基本構造 その3 7. 会計システムの基本構造 その4 8. 貸借対照表の構造 9. 損益計算書の構造 10. 財務会計と管理会計 11. 財務諸表の分析 12. ホスピタリティ産業における管理会計情報 その1 13. ホスピタリティ産業における管理会計情報 その2 14. 宿泊施設の統一会計報告様式 (USALI) 15. まとめと試験 <p>【授業方法】講義形式で説明したのち、演習形式で練習問題を解き理解度を確認する。</p>				
④授業外学習	演習形式での練習問題を復習課題として課すことがある。また、会計システムの基本構造について、冬休みにレポートを課し、レポートの結果を成績に反映させる。				
⑤テキスト・参考書等	<p>テキスト：印刷教材を適宜配付する。</p> <p>参考書：徳江順一郎編著『サービス&ホスピタリティ・マネジメント』産業能率大学出版部、2011年。 早稲田大学商学部監修、長谷川恵一編集、2016、『観光立国日本への提言－インバウンド・ビジネスのチャンスをとらえる－』成文堂。 清水孝・長谷川恵一・奥村雅史『入門原価計算』第2版、中央経済社、2004年。 小林啓孝・伊藤嘉博・清水孝・長谷川恵一『スタンダード管理会計』東洋経済新報社、2009年。</p>				
⑥成績評価方法	試験を60%、冬季休業期間中に課すレポートを40%とする。				
⑦質問受付方法（オフィスアワー等）	オフィスアワーは特に設定しないが、直接質問したい場合は随時受け付ける（受付の方法については授業時に伝達する）。				
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	<p>【(他の授業科目との関連性) 他の科目との関連性】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 特別な知識を必要としない入門講座であり、初歩的な事項から段階的に説明していくので、ホスピタリティ産業に興味のある学生であれば履修できる。なお、毎回の授業内容を着実に理解していかないと途中で分からなくなるため、極力授業に欠席しないこと。 2) ホスピタリティ産業における様々なビジネスの事例について必要に応じて触れ、会計の概念や手法がどのように用いられているかについても解説する。 <p>【その他】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 計算問題を多く扱うので、履修生は電卓を持参すること。携帯電話等の電卓機能は試験時においては使用できないので、8桁程度の計算ができるものを準備すること。 2) 冬季休業期間中のレポートは、成績評価のうち40%の割合を占めるので、必ず提出すること。 				

■観光マネジメント副専攻コース専門教育科目

N0001	観光関連法規概説	担当教員	阿曾 真紀子 *、小川 竜明 *、 清水 哲夫	後期・水2	2単位
科目ナンバリング	XTM-321-1：観光マネジメント副専攻コース				
①授業方針・テーマ	観光関連法規が、現在の日本の観光政策、観光産業、そして旅行者の観光行動等にどのような影響を及ぼし、またどのような課題を抱えているのかを体系的に学び、改めて観光の意義を考える機会とする。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	日本の観光のダイナミックな動きと諸課題とそれに関連したケーススタディを学ぶとともに、行政の現場の状況などを含めて体系的に観光関連法規について習得する。特に、ケーススタディでは最新の事例を提供するため、実務の観点から学習することが可能である。				
③授業計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーションおよび観光関連法規の概要 2 観光関連法規概説で用いる視点（観光主体、観光客体、観光媒体、観光行政） 3 観光立国推進基本法、観光立国推進基本計画（主に観光主体に対する働きかけ） 4 グループディスカッションⅠ （観光立国の推進が観光客体や観光媒体などに与える効果や影響について議論する） 5 関連法Ⅰ（主に観光客体に対する働きかけ） <ul style="list-style-type: none"> ・エコツーリズム推進法（自然観光資源） ・文化財保護法（文化観光資源） ・景観法、歴史まちづくり法（複合型観光資源） 6 グループディスカッションⅡ （観光資源の保護・活用が観光主体や観光媒体などに与える効果や影響について議論する） 7 旅行業法（主に観光媒体に対する働きかけ①—旅行業） 8 関連法Ⅱ（主に観光媒体に対する働きかけ②—宿泊業） <ul style="list-style-type: none"> ・旅館業法と「住宅宿泊事業法」 9 ケーススタディⅠ（旅行会社や航空会社などの観光産業と旅行者行動への影響） 10 ケーススタディⅡ（宿泊産業などの観光産業と旅行者行動への影響） 11 グループディスカッションⅢ （民泊の推進が観光主体や観光客体などに与える効果や影響について議論する） 12 関連法Ⅲ（主に地域住民、地方自治体、地域の事業者に対する働きかけ） <ul style="list-style-type: none"> ・観光圏整備法 ・観光地域づくり法人（DMO） 13 グループディスカッションⅣ （観光地域づくりを行う地方自治体等の取組みを調べ、観光客体との関連や、観光主体及び観光媒体などに与える効果や影響などを議論する） 14 ケーススタディⅢ（海外と国内の観光関連法の最新動向と今後の課題） 15 まとめと試験 				
④授業外学習	観光政策の動向について新聞などを通じて情報を得ておくことをすすめる。				
⑤テキスト・参考書等	<p>講義に必要な資料は適宜配布する。</p> <p>参考書：「旅行業法及びこれに基づく命令」JTB 総合研究所。 「事例で読みとく海外旅行クレーム予防読本」安田亘宏/菅生洋著,学芸出版,2016年..</p>				
⑥成績評価方法	授業の積極的な参加、ミニレポートと試験により評価（具体的な評価方法はオリエンテーション時に通知する）				
⑦質問受付方法（オフィスアワー等）	授業終了後に質問等を受け付ける。				
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	<p>【他の授業科目との関連性】</p> <p>特別な予備知識を必要とせず、観光関連法規を学びながら現実社会との関わりを考える授業であるので、専門を問わず興味があれば受講できる。</p>				

N0002	観光ビジネス・ゼミナール	担当教員	阿曾 真紀子*、清水 哲夫	集中（期間未定）	2単位
科目ナンバリング	XTM-322-1：観光マネジメント副専攻コース				
①授業方針・テーマ	本科目は、観光マネジメント・インターンシップのための事前学習の授業である。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・観光関連産業の実務を理解することができる。 ・観光関連産業で求められる資質を理解することができる。 				
③授業計画・内容	<p>[授業計画内容・授業方法] 観光マネジメント・インターンシップのスケジュールに合わせて授業を行う。 3年生のみを対象とする。 2022年度の担当教員は阿曾・清水である。 ガイダンス日程については別途連絡する。</p> <p>[授業計画・内容] ガイダンスに参加必須（やむを得ない事情で参加できない希望者は事前に科目担当教員に連絡） 詳細は、ガイダンスで説明する。</p>				
④授業外学習	インターンシップ先に関連する情報を各自で十分に収集しておくこと。				
⑤テキスト・参考書等	適宜参考文献を紹介する。				
⑥成績評価方法	観光マネジメント・インターンシップに準じる。				
⑦質問受付方法（オフィスアワー等）	オフィスアワーは特に設定しないが、直接質問したい場合は随時受け付ける（受付の方法については授業時に伝達する。）				
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	<p>詳細はガイダンス（参加必須）で説明する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これは集中開講科目である。成績登録は2022年度の後期になされるので十分に注意すること。 ・この科目のみの履修は認めない。観光マネジメント・インターンシップと組み合わせて履修すること。 				

N0003	観光マネジメント・インターンシップ	担当教員	阿曾 真紀子*、清水 哲夫	集中（期間未定）	2単位
科目ナンバリング		XTM-323-1：観光マネジメント副専攻コース			
①授業方針・テーマ	インターンシップは、主に夏季休業期間に各自の希望する職種の民間企業、行政機関、NPO等を選定し、観光にかかわる実務を体験するものである。この実習によって、講義では得られにくい広い素養を身につけるとともに、観光にかかわる職能や技術を広く理解することを目的とする。なお、前期卒業を予定している学生は、特記事項の内容に特に注意すること。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・観光関連産業の実務を理解することができる。 ・観光関連産業で求められる資質を理解することができる。 				
③授業計画・内容	<p>[授業計画内容・授業方法]</p> <p>下記の計画に沿って事前学習（企業研究）、企業ガイダンス、職場実習（実務体験）、実習報告会を行う。これは一般社団法人 日本経済団体連合会の協力を得て実施する、3年生のみを対象とするプログラムである。2022年度の担当教員は阿曾・清水である。以下、実施予定の概要を示すが、詳細は、ガイダンスで説明する。</p> <p>[授業計画・内容]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス ガイダンスに参加必須（やむを得ない事情で参加できない希望者は事前に科目担当教員に連絡） 2. 履修登録希望者は担当教員に連絡 以下の詳細はガイダンスで説明する。 3. 応募 4. 選抜者に連絡 5. 選抜者ガイダンス 6. 企業研究 7. 企業ガイダンス 8. 実習先希望書提出 9. 実習先発表 10. 実習先企業と派遣学生の面談 11. 実習に向けての発表会 12. 事前レポート提出 13. 実務体験（夏季休暇中の、派遣先企業・団体の休日を除く5日程度） 14. 実習報告書提出（実習終了後2週間以内） 15. 実習報告会 				
④授業外学習	インターンシップ先に関連する情報を各自で十分に収集しておくこと。				
⑤テキスト・参考書等	適宜参考文献を紹介する。				
⑥成績評価方法	事前レポート（20%）、実習報告書（30%）、及び受け入れ企業・団体の評価レポート（30%）、実習報告会（20%）の内容により評価する。				
⑦質問受付方法（オフィスアワー等）	オフィスアワーは特に設定しないが、直接質問したい場合は随時受け付ける（受付の方法については授業時に伝達する。）				
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	<p>2022年度開始前に都市環境学部の教務掲示板に掲示を出すので、そちらも必ず参照のこと。詳細はガイダンス（参加必須）で説明する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これは集中開講科目である。成績登録は2022年度の後期になされるので十分に注意すること。 ・インターンシップは夏季休暇中の5日間程度実施する（土日祝日を含む可能性あり）。 ・ガイダンス後に提出する応募用紙の記載内容（ガイダンスで説明する）を基に選抜を行う。 ・選抜者のこの科目の履修登録については、科目担当者側で配慮する（ガイダンスで説明する）。 ・指定の損害賠償保険への加入が必須となる（ガイダンスで説明する）。 ・履修者の希望は考慮するが、希望する実習先に配属されるとは限らない。 ・他の実習科目を履修する場合は、実施時期が重なる可能性があることに留意すること。 ・この科目のみの履修は認めない。観光ビジネス・ゼミナールと組み合わせて履修すること。 <p>[他の授業科目との関連性]</p> <p>学生サポートセンターキャリア支援課のビジネスマナー講習の受講を推奨する。</p>				

N0004	宿泊産業・ゼミナール	担当教員	平田徳恵*、阿曾真紀子*、 清水 哲夫	集中	2単位
科目ナンバリング		XTM-324-1:観光マネジメント副専攻コース			
①授業方針・テーマ	本科目は「宿泊旅行サービス研究」の事前学習用の授業である。 ホスピタリティやサービス、日本的な「もてなし」の事例紹介を通し、基本的知識、概念について学ぶ。また、グループディスカッションやグループワークを通し、宿泊サービスの評価についての理解を深める。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	ホテルや旅館でのホスピタリティ（日本的なもてなし）やサービスの基礎を学ぶ。 ・宿泊サービスの評価について理解する。 ・自身が経験した宿泊サービスを評価できる。				
③授業計画・内容	[授業計画・内容] 1) 8月4日(木) ・イントロダクション ・講義 2) 8月5日(金) ・講義 ・グループディスカッション 3) 8月8日(月) ・グループワーク ・プレゼンテーション準備 4) 8月9日(火) ・発表会 ・まとめ				
④授業外学習	関連する情報を各自で収集し、読んでおくことを奨める。				
⑤テキスト・参考書等	必要な資料については、講義時に配布する。適宜参考文献を紹介する。				
⑥成績評価方法	講義のフィードバックシート、ショートレポート、グループワークへの貢献度、最終発表によって総合的に評価する。出席が7割に満たないものは、成績評価対象としない。				
⑦質問受付方法（オフィスアワー等）	オフィスアワーは特に設定しない。質問がある場合は随時受け付けるので、担当教員にメール（平田連絡先：n-hirata@tmu.ac.jp）等でアポイントメントを取ること。				
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	<ul style="list-style-type: none"> ・本科目は、集中I期の開講であるが、成績登録は2022年度の後期になされるため、前期卒業を予定している学生は十分に注意すること。 ・この科目のみの履修は認めない。必ず「宿泊旅行サービス研究」と組み合わせて履修すること。 [他の授業科目との関連性] 旅行産業論の受講を推奨する。				

N0005	宿泊旅行サービス研究	担当教員	平田徳恵 *、阿曾真紀子 *、 清水 哲夫	集中	2 単位
科目ナンバリング	XTM-325-1 : 観光マネジメント副専攻コース				
①授業方針・テーマ	夏休みや秋期の連休および冬休み等を利用した 1 週間程度の国内旅行におけるホテルや旅館でホスピタリティあるいはサービスを経験した中で、日本的な「もてなし」について検討し、レポートすることで本科目の単位認定を行なう。 履修希望者は、本科目の初回講義に必ず出席し、旅行計画書ならびにレポート作成のポイント・注意点について授業担当者から説明を受けなければならない。レポート提出後に報告会を実施する。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	事前に「宿泊産業・ゼミナール」における講義を受講した上で、国内旅行に出かけ、ホテルや旅館でのサービスを経験する。その実際から知見を得ることで、そのサービス経験を評価・検討できるようになる。				
③授業計画・内容	<p>[授業計画・内容]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 事前計画書および事後レポート説明 : 8 月 4 日 (木) 2) 各自原則延べ 7 日程の旅 <ul style="list-style-type: none"> ・第 1 回報告会 (9 月 16 日) 発表者の旅行期間 : 8 月 10 日から 9 月 11 日 ・第 2 回報告会 (2 月 13 日) 発表者の旅行期間 : 9 月 13 日から 1 月 22 日 3) 事後レポートの提出期限 <ul style="list-style-type: none"> ・第 1 回報告会発表者 : 9 月 12 日 (月) ・第 2 回報告会発表者 : 12 月 22 日 (木) ※仮提出の場合は 1 月 26 日 (木) 本提出のこと。 4) プレゼンテーション準備 <ul style="list-style-type: none"> ・第 1 回報告会発表者 : 9 月 12 日 (月) ・第 2 回報告会発表者 : 12 月 22 日 (木) ・ 1 月 26 日 (木) 5) 報告会 <ul style="list-style-type: none"> ・第 1 回宿泊旅行サービス研究報告会 : 9 月 16 日 (金) ・第 2 回宿泊旅行サービス研究報告会 : 2 月 13 日 (月) <p>[授業方法]</p> <p>事前計画書の提出は、計画した国内旅行の原則 1 週間前をメ切とする。各自遂行する原則延べ 7 日程の旅についての旅行費用等は全額自己負担、2 泊 3 日と 3 泊 4 日などの組み合わせは自由とする。また、国内旅行後には報告会を行う。報告会は、集中Ⅱ期および後期授業期間終了時の 2 回に分けて開催する。2 回の報告会には履修者全員参加のこと。</p>				
④授業外学習	関連する情報を各自で収集し、読んでおくことを奨める。				
⑤テキスト・参考書等	適宜参考文献を紹介する。				
⑥成績評価方法	旅行計画書と提出レポートおよび報告会におけるプレゼンテーションの内容にて総合的に評価する。				
⑦質問受付方法 (オフィスアワー等)	オフィスアワーは特に設定しない。質問がある場合は随時受け付けるので、担当教員にメール (平田連絡先 : n-hirata@tmu.ac.jp) 等でアポイントメントを取ること。				
⑧特記事項 (他の授業科目との関連性)	<ul style="list-style-type: none"> ・本科目は、集中・他の開講であるが、成績登録は 2022 年度の後期になされるため、前期卒業を予定している学生は十分に注意すること。 ・この科目のみの履修は認めない。「宿泊産業・ゼミナール」と組み合わせて必ず履修すること。 <p>[他の授業科目との関連性]</p> <p>旅行産業論の受講を推奨する。</p>				

成績の評価項目と基準

成績評価は各科目のシラバスに記載されている成績評価方法（項目）に従い行われ、以下の評価基準に従い公表される。なお、成績証明書の成績表示変更に伴い、入学年度によって成績証明書の表記が異なるので、下記を参照のこと。

<2019年度以降入学者 成績表示>

成績表示	成績証明書の表示	GPA 素点	単位	成績評価基準	100点法 (目安)
5	秀	4.0	○	到達目標を十分に達成し、 きわめて優秀である。	90点以上
4	優	3.0	○	到達目標を十分に達成している。	80～89点
3	良	2.0	○	到達目標を達成している。	70～79点
2	可	1.0	○	到達目標を最低限達成している。	60～69点
1	表示せず	0.0	×	到達目標を達成していない。	59点以下
0	表示せず	0.0	×	評価の対象とならない。	

<2016-2017年度入学者 成績表示>

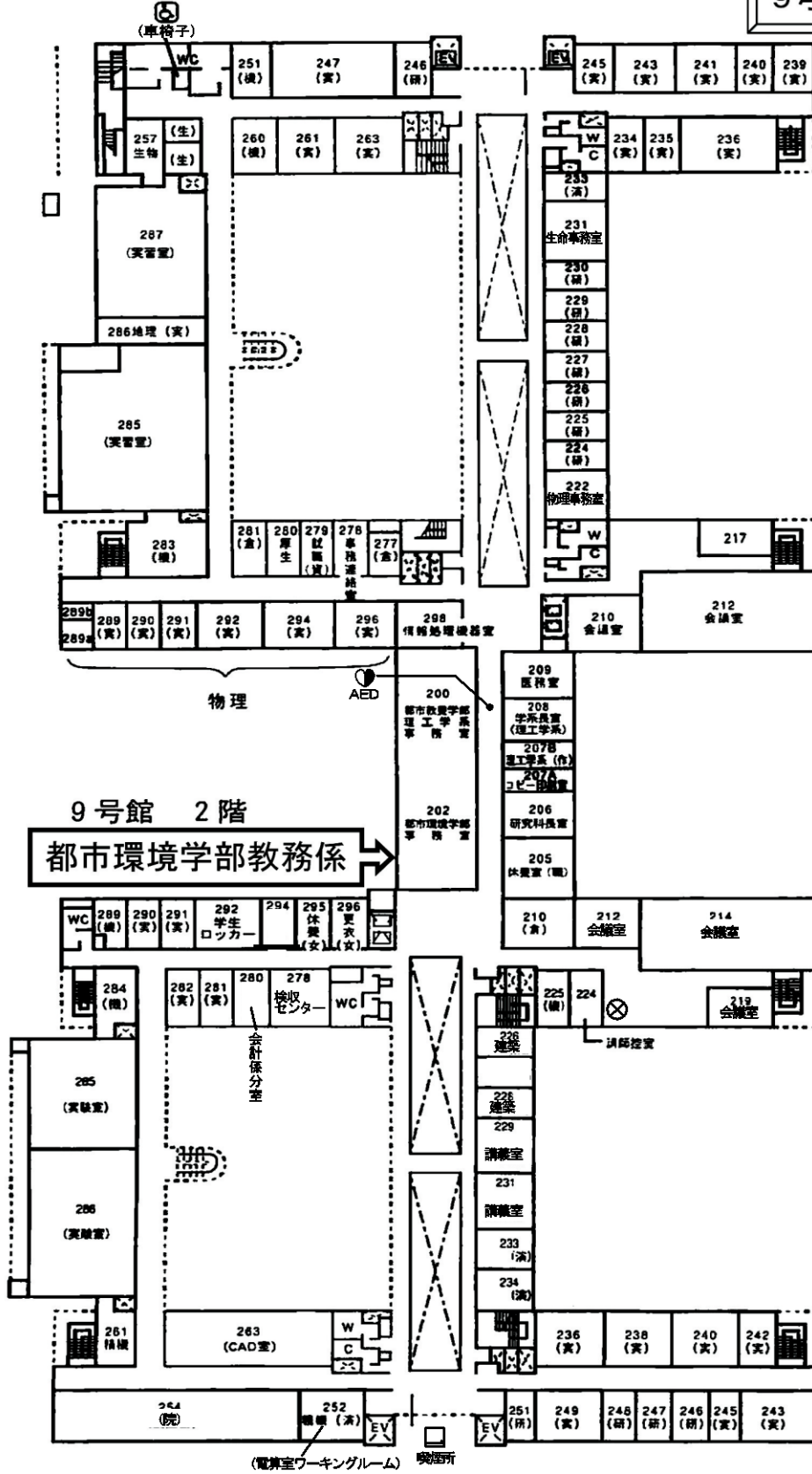
成績表示	成績証明書の表示	程度	100点法	GPA 素点
5	秀	非常に優れている	90点以上	4.0
4	優	優れている	80～89点	3.0
3	良	普通	70～79点	2.0
2	可	やや劣る	60～69点	1.0
1	表示せず	劣る	59点以下	0.0
0	表示せず	評価の対象にならない		0.0

<2015年度以前入学者 成績表示>

成績表示	成績証明書の表示	程度	100点法	GPA 素点
5	優	非常に優れている	90点以上	4.0
4	優	優れている	80～89点	3.0
3	良	普通	70～79点	2.0
2	可	やや劣る	60～69点	1.0
1	表示せず	劣る	59点以下	0.0
0	表示せず	評価の対象にならない		0.0

8号館 2階

9号館2階見取り図



- 凡例
- (研) 研究室 (研究準備室含む)
 - (演) 演習室
 - (講) 講義室
 - (事) 事務室
 - (倉) 倉庫
 - (機) 機械室
 - (院) 院生室
 - (学) 学生室
 - (実) 実験室・実習室 (準備室含む)
 - (助) 助手室
 - (作) 作業室
 - (資) 資料室
 - (測) 測定室
 - (製) 製図室 (準備室含む)

年 月 日

副専攻コース履修申出書

所 属	学 部 _____ 学 科 ・ 系 ・ コース _____	
学修番号	学修番号 _____	
学年・氏名	学年 _____ ・ 氏名 _____	
副専攻コース名	観光経営副専攻コース（2017年度[平成29年度]以前入学） 観光マネジメント副専攻コース（2018年度[平成30年度]以降入学）	
確 認 欄	学務課等担当者	備 考

（日本工業規格A列4番）

※観光経営副専攻コース、観光マネジメント副専攻コースの履修を希望する学生は、本様式に必要事項を記入し、都市環境学部教務係窓口に提出すること。

※学務課等担当者は受付の際、本申出書の写しを学生に交付する。

2022年度
東京都立大学
「観光経営副専攻コース」
「観光マネジメント副専攻コース」シラバス

2022年4月1日発行

発行 東京都立大学都市環境学部
東京都八王子市南大沢一丁目1番地
〒192-0397 電話(042)677-1111 (代表)